

2024 年度

年 報

(第 11 号)



社会福祉法人 ワゲン福祉会

ワゲン療育病院長竹

ご挨拶

社会福祉法人ワゲン福祉会
理事長 松本 豊

ワゲン療育病院長竹は、2014 年 4 月に開院し地域の皆様から御支援を頂きつつ、11 年目を迎えることができました。この場を借りて御礼を申し上げます。

当院は、広く医療、介護、福祉の連携を旨としている本法人の中で、特に障害をお持ちの方々、あるいはその御家族に寄り添うことを目的とした病院であります。担っている役割は大変重いものであります。すなわち、障害をお持ちの方々にとっても、尊厳を保ちつつ御家族とともに幸せな生活を送ることは大切なことであり、当然の権利と考えます。

同一法人内の病院である、総合相模更生病院とも緊密な連携を取りつつ、地域の皆様に貢献できるように日々の業務に従事しております。JR 相模原駅に隣接する、総合相模更生病院は私どもの法人の屋台骨を担っている主たる施設でもあります。

同院は本年 11 月に開院 80 周年を迎えることとなります。開院後 10 年以上が経過し、病院の運営が軌道に乗ってきたワゲン療育病院長竹と、長きにわたる歴史の中をくぐり抜けてきた更生病院が力を合わせて、より高みを目指して成長し、より地域の皆様に貢献することができればと考えております。

ワゲン療育病院長竹 2024 年度年報 発刊によせて

施設長 村上 研一

早いもので当施設は開設から 10 年を経て、今年から新たな 10 年間の第一歩を踏み出しました。

先の 10 年間は 60 床あるうちの 40 床を活用して、常に 100%近い稼働率を維持することが目的でしたが、次の 10 年間で残りの 20 床を有効活用すべく、昨年末より徐々に利用者の受け入れ数を増やしていくことに着手しました。

当施設に限らず、全国の重症心身障害児・者施設では医療従事者の深刻な人手不足に悩まされており、近隣の施設でも長期入所者はもとより、短期入所者の受け入れも停止する施設が出てきている状況です。

コロナ禍を乗り切ったのも束の間、在宅療養で様々な困難に直面している利用者の方々を支えるサービスが縮小していくのは、非常にやり場のない怒りを覚えます。

私がこの世界に足を踏み入れてから 30 年以上が経過しますが、医療の進歩に伴い障害を抱えながら在宅療養で生活をする方々が年々増えているにもかかわらず、医療費の削減や行政サービスの効率化に固執している行政の施策は利用者の在宅療養を一層困難な状況に追い込んでいると感じるからです。

当施設も例にもれず、看護師をはじめとした医療従事者の人手不足に喘いでいますが、何よりも在宅療養で苦しんでいる利用者の方々のお力になれるように、受け入れ数を少しずつ増やす努力を続けていきたいと思えます。

その一方で、10 年を節目にこれまで続けてきた慣習や設備投資を一新する時期に来ていることも確かです。

人手も予算もない中で如何に痛みを分かち合って支え合っていけるか。

これが次の 10 年間の最重要課題と考えます。

今後とも施設の運営にご理解とご協力を宜しくお願い致します。

ワゲン療育病院長竹 基本理念・基本方針

基本理念

- ・いかなる障害があろうとも、また、どのような境遇にあろうとも人はその存在価値において全て平等であり、等しくその人間性を尊重します。
- ・障害者と共に生きる文化を創造し発展させます。
- ・一人一人の思いを大切にして、ぬくもりのある医療・療育を実施します。

基本方針

- ・利用者を敬い、寄り添い、共に歩んでいくために、自らの立場を常に利用者に照らして「相手の痛みの分かる」振る舞いを心がけます。
- ・限られた条件下でも常に探求心を忘れずに、より質の高い医療的ケア・療育を提供すると同時に、職員の知識・技術の向上を目指します。
- ・職員が共に認め合い、助け合い、励まし合える職場作りを目指します。

目 次

<総括編>

I	沿革	7
II	施設概要	7
III	施設	8
IV	組織図	11
V	人事	12
VI	運営	13

<業務・統計編>

I 業務実績

1	入・退所者の動向	17
2	教育研修	22
3	看護部	24
4	薬剤科	33
5	栄養科	34
6	検査科	35
7	放射線科	36
8	リハビリテーション科	37
9	心理科	38
10	事務部	39

II 会議・委員会活動

1	入所調整会議	40
2	教育研修委員会	41
3	感染対策委員会	42
4	医療安全管理委員会	43
5	権利擁護・虐待防止委員会	45
6	衛生委員会	46
7	薬事委員会	47
8	栄養委員会	48
9	NST・褥瘡対策委員会	49
10	モニタリング会議・初回支援計画策定会議・支援計画作成	51
11	医療ガス安全管理委員会	52
12	施設行事・ボランティア委員会	53
13	防災対策委員会	55
14	情報管理・広報委員会	56
15	診療録管理委員会	57

III 所属団体・学会・研究業績等

1	所属団体	58
2	所属学会	58

IV 特別支援学校

V 神奈川県重症心身障害児者協議会の活動

総括編

I 沿革

2013 年 09 月 02 日	病床数 60 床の病院開設許可（外来開設許可含む）
2014 年 02 月 10 日	病院及びゴミ置場等工事完成 竣工
2014 年 03 月 10 日	病院開設 社会福祉法人相模更生会 ワゲン療育病院長竹
2014 年 03 月 28 日	医療型障害児入院施設として設置認可 療養介護・短期入所・医療型障害児入所施設として相模原市長指定
2014 年 04 月 01 日	業務開始（20 床 入院基本料 10：1） 保坂和子施設長 就任
2014 年 04 月 08 日	県立津久井養護学校長竹学級開始
2015 年 01 月 30 日	3 階病棟 20 床を追加開床（40 床 入院基本料 10：1）
2015 年 03 月 30 日	3 階病棟オープン入所者一部転棟
2015 年 06 月 25 日	ミールラウンド開始（おい歯科協働）
2015 年 06 月 12 日	多目的コンテナ 3 棟設置（運転員・ボランティア控室等）
2015 年 10 月 17 日	第 1 回家族会開催（会長：高山氏）
2015 年 12 月 01 日	社会福祉法人「ワゲン福祉会」に名称変更
2019 年 09 月 30 日	保坂和子施設長 退任
2019 年 10 月 01 日	村上研一施設長 就任
2023 年 11 月 01 日	入院基本料 13：1 となり看護補助加算 2 を算定
2024 年 04 月 01 日	1 階病棟 10 床を追加開床（届出病床数 50 床）

II 施設概要

名称	社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹
所在地	神奈川県相模原市緑区長竹 494-1 TEL 042-784-7227（代）
病院施設	敷地面積 : 2998.23 m ² 建物延べ面積 : 2993.10 m ²
建物構造	鉄筋コンクリート造 地上 3 階
開設日	2014 年 3 月 10 日
病院長	村上 研一
許可病床数	60 床（届出病床数 50 床）
標榜診療科目	内科、小児科、リハビリテーション科
保険指定	保険医療機関、生活保護指定、障害児者入所施設、障害児者短期入所
主な施設基準	【基本診療の施設基準に関する届出】 障害者施設等入院基本料 13：1、特殊疾患入院施設管理加算、看護補助加算 2、診療録管理体制加算 3、データ提出加算 1・データ提出加算 3 □、療養環境加算、4 級地地域加算、 【その他の施設基準に関する届出】 入院時食事療養（Ⅰ）、障害児（者）リハビリテーション料、脳血管リハビリテーション料（Ⅲ）、入院ベースアップ評価料 32、外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ） 【福祉事業に関する届出】 療養介護Ⅰ-2、医療型短期入所サービスⅠ、医療型障害児入所施設Ⅰ（3） （2025 年 3 月 31 日現在）

Ⅲ 施 設

1 敷地面積 2998.23m²

2 建 物

1) 構造 鉄筋コンクリート造り 地上3階建

2) 床面積：2967.71m²（1階 693.67m² 2階 1263.46m² 3階 1010.58m²）

3) 居室：60床（許可病床50床）

居室の 種類	室 数			一室当たり 面積（内法）	一人当たり 面積	酸素	吸引	シンク 物入れ
	1 階	2 階	3 階					
2人部屋	2	2	2	23.31m ²	11.65m ²	○	○	○
4人部屋	4	4	4	32.93m ²	8.23m ²	○	○	○

4) 居室以外の設備

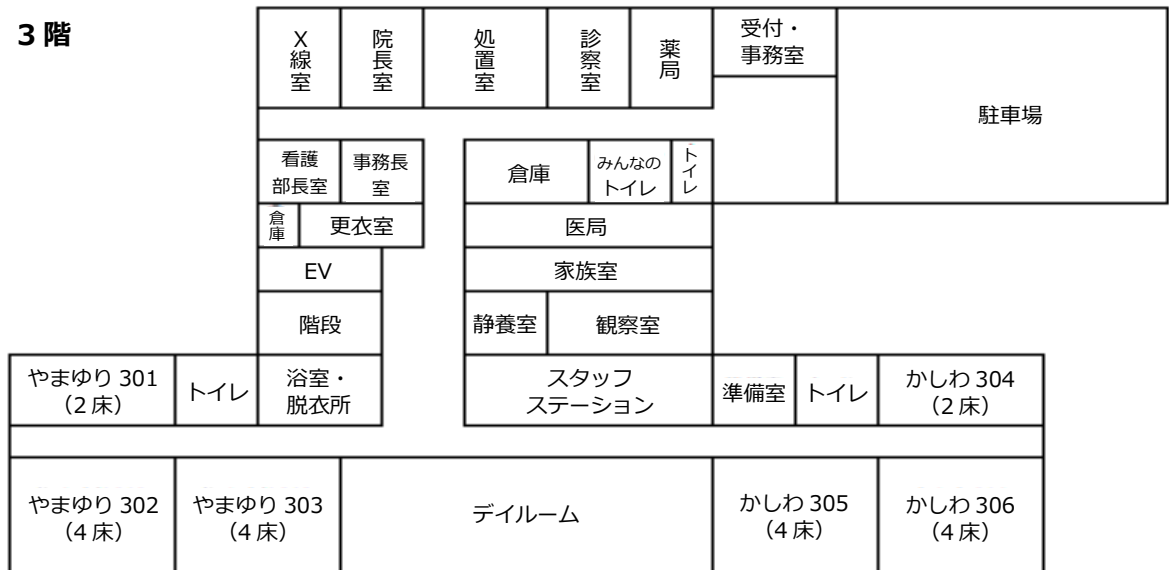
設 備	室 数			一室当たり 面積m ²
	1 階	2 階	3 階	
静養室	1	1	1	19.86
観察室	1	1	1	22.78
浴室:特浴	1	1	1	40.96
浴室 A	1	-	-	22.14
診療情報管理室 兼倉庫	-	1	-	54.84
便所：WC 1	1（特殊和便器）	1（特殊和便器）	1（特殊和便器）	12.45
WC 2（職員）	1	1	1	1.70
WC 3	1	1	1	5.27
WC 4	-	1（1.70）	1（2.36）	1.70～2.36
WC 5	-	1	-	1.70
WC 6（厨房）	-	1	-	2.04
1-ティティ	-	1（11.65）	1（7.09）	7.09～ 11.65
スタッフステーション	1	1	1	33.01
食堂兼デイルーム	1	1	1	105.55
リハビリテーション室	-	1	-	125.02
スタッフ室	-	1	-	9.38
ST 室	-	1	-	13.65
スナック	-	1	-	34.12
CU（準備室）	1	1	1	9.14
DU（汚リネン）	1	1	1	8.56

設 備	室 数			一室当たり 面積 m^2
	1 階	2 階	3 階	
リネン室	1 (2.99)	1 (3.77)	1 (7.80)	2.99~7.80
倉庫 2	-	1 (4.10)	1 (6.58)	6.58~4.10
倉庫 1	-	1	1	4.58
倉庫 4	-	1	-	3.45
多目的室	-	1	-	4.96
家族室	-	-	1	32.92
会議室	-	1	-	36.00
洗濯室	-	1	-	21.17
厨房事務室	-	1	-	7.27
厨房更衣室	-	1	-	1.63
検収室	-	1	-	8.56
冷蔵庫	-	1	-	4.86
食品倉庫	-	1	-	5.48
調理場	-	1	-	28.16
配膳車プール	-	1	-	16.32
更衣室	-	1 (12.28) 男	1 (30.67) 女	12.28~30.67
事務室	-	1	-	20.78
応接室	-	1	-	16.15
薬局	-	-	1	12.97
物入れ	-	-	1	1.21
受付・事務	-	-	1	13.33
待合	-	-	1	10.79
診察室	-	-	1	13.53
処置室	-	-	1	13.53
X 線室	-	-	1	9.49
操作室	-	-	1	10.66
看護部長室	-	-	1	11.34
事務長室	-	-	1	10.81
院長室	-	-	1	13.53
医局	-	-	1	44.47
エレベーター	1	1	1	8.45
屋内・外避難階段	2	2	2	
バルコニー、避難路				

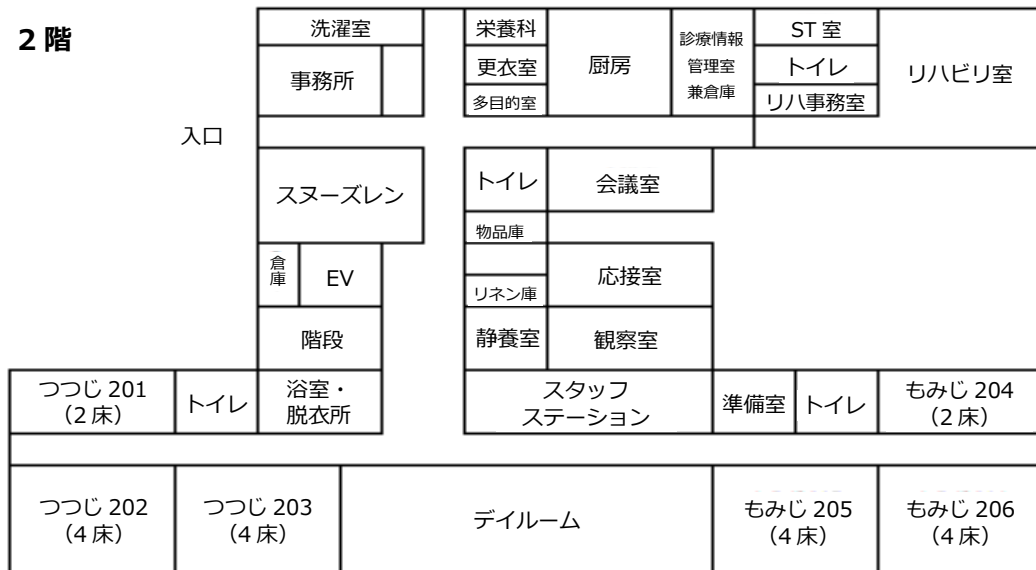
5) 付属設備：酸素リネン室 ($7.8m^2$)、吸引機械室 ($5.2m^2$)、ごみ庫 ($7.0m^2$)、
廃棄物庫 ($3.0m^2$)、特別管理産業(一般)廃棄物保管庫、給水ポンプユニット ($7.26m^2$)、
汚水浄化槽制御盤、LP ガス供給設備、プレハブ小屋 (3 棟)

6) 見取図

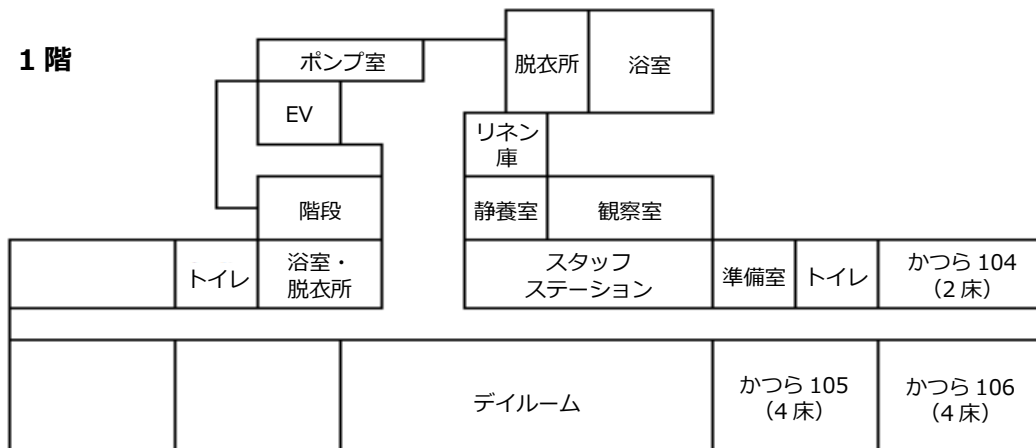
3 階



2 階

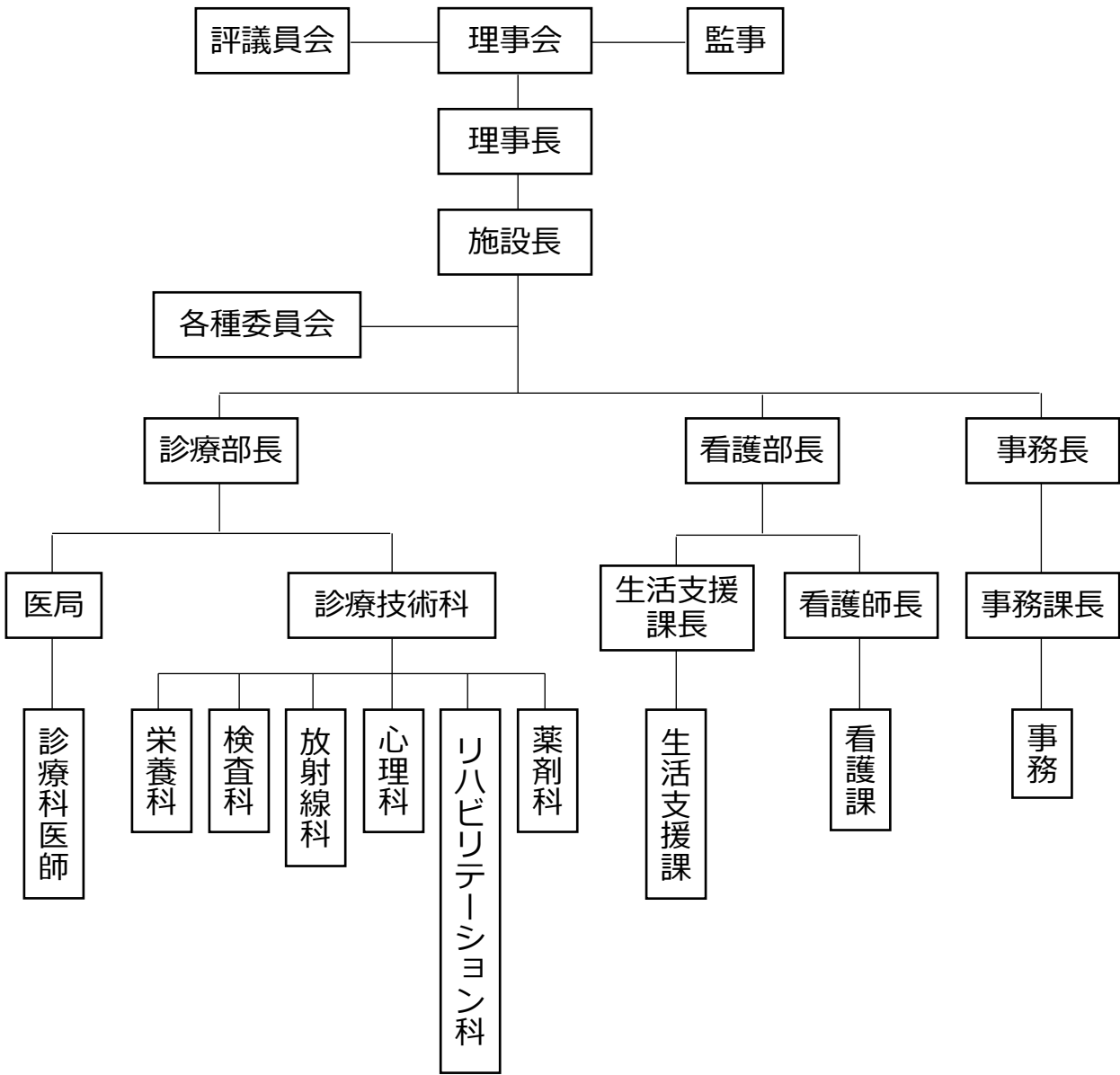


1 階



IV 組織図

2024 年 4 月 1 日現在



V 人 事

職員構成 (人数；2024 年 4 月 1 日現在)

職種	常勤	非常勤	兼務	委託
医師	1	20		
薬剤師	1			
看護師	11	18		
准看護師		3		
看護補助者	1			
生活支援員 (介護福祉士)	17			
(保育士)	5			
(その他)	3	5		
管理栄養士	1			
臨床心理士	1			
音楽療法士		1		
事務員 (事務長)			1	
(課長)	1			
(事務員)	3			
作業療法士	1			
理学療法士	1			
臨床検査技師			1	
放射線技師			1	
運転員・用務員		5		
栄養士				1
調理師				3
清掃員				3
計	47	52	3	7

勤務体制

勤務形態	勤務時間	医師	看護要員	生活支援員	薬剤師	臨床心理士	事務員	管理栄養士	作業療法士	理学療法士	調理師 (委託)	運転手 (非常勤)	清掃員 (非常勤)
早出	4:30～13:30										○		
	7:30～8:30	○											
	7:30～16:30			○					○				
日勤	8:30～17:30	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
	9:00～18:00										○		
	8:30～16:30		○										○
	9:00～16:00		○	○									
	8:30～12:30		○										
	8:30～13:30		○										
遅出	11:00～20:00			○							○		
	16:00～20:00										○		
	17:00～19:00			○									
	17:30～19:00	○											
夜勤	16:30～8:45		○	○									
シフト	6:45～20:50											○	
当直医	19:00～7:30	○											

VI 運 営

1 診療体制

施設長（医師） 村上 研一

1) 医師の体制：

今年度も常勤医が 1 名と聖マリアンナ医科大学の小児科を主体とした非常勤医 1 名が日中の診療に携わることで長期入所者の健康状態は概ね安定している。

しかしながら、昨年 9 月より 1F フロアに新たに 10 床のベッドを開床し、新たな長期入所者の受け入れと短期入所者の利用増加に伴って医師の業務負担は増加してきている。今後、入所者数が 50 人を超えるようであれば常勤医 1 名での運用は困難を極めるため、常勤医 2 名と非常勤医 1 名での診療体制の確立を検討しなくてはならない。

2) 入所者の診療体制：

新型コロナウイルス感染症が蔓延してから約 5 年が経過して、これまでよりは新型コロナウイルス感染症の発生頻度は減少している。その反面、季節を問わないインフルエンザやマイコプラズマ感染症など、鑑別の困難な上気道炎の発生リスクは増加しており、検査キットの拡充も難しい状況ではあらゆる感染症の確定診断は不可能である。それ故にあらゆる感染症全般に対する知識と基本的対応を職員が徹底することで、発生は防げなくとも蔓延を防ぐ体制を整えることが重要であると考えている。

また開設して 10 年が経過し、初期に入所した入所者の年齢も徐々に高齢化が進んでおり、原疾患に加えて生活習慣病や悪性腫瘍の発生リスクも考慮した診療が求められている。

3) 入所受け入れ体制：

ここ数年に比べて新型コロナウイルス感染症に伴う短期入所の受け入れ停止は減少傾向にあるが、市中感染症や短期入所利用者の体調不良に伴う入所予定の直前キャンセルの割合が増加しており、2 ヶ月前からのベッドコントロールが思うように捗らないことも短期入所利用の経営効率化に大きな影響をもたらしている。このため、1F フロアの部分開床により各フロアの空床を感染症対策上の空きスペースとして有効活用したり、短期入所者のベッド配置を柔軟に変更することで対応している。

4) 外来体制：

地域住民の方々への外来対応や、当施設利用者のリハビリ外来などの外来体制も開設当初からの長期目標ではあるが、まずは増床に伴う長期入所者の受け入れと短期入所者の利用率の向上を優先的課題としている現在では、常勤医やリハビリ医の確保が可能になるまでは難しいのが現状である。

5) 他職種との連携：

おい歯科による訪問歯科診療と、ミールラウンドによる摂食嚥下機能の評価は利用者の健康管理に大きく寄与しており、特にミールラウンドに伴う院内 NST の立ち上げにより、利用者の栄養管理の質は徐々に高まっている。今後も家族とも情報を共有しながら日々の食事や栄養管理を充実させていくように連携を深めていきたい。

2 看護・療育体制

看護部長 平川 千鶴子

重症心身障害児者の健康・心身機能障害に対して、安全な環境体制を整え、安心して暮らしていくことができる看護・療育を目指している。

1) 看護部の体制

看護部は看護課・生活支援課があり、看護師、生活支援員、看護補助者の職種で構成されている。勤務体制は2交代制で日勤、夜勤、早出、遅出があり日勤の人数は看護師4～6名、看護補助者は1名、生活支援員1～3名、早出勤務の生活支援員は4～5名、遅出勤務の生活支援員は3～4名である。9月より1階フロアがオープンとなり、夜勤は4名から5名体制に変更した。長期・短期利用者の人数も拡大した為、業務改善等の見直しを実施した。利用者の居室移動も大幅に行い、利用者の安心した生活環境を整えるために各課で検討・協力しながらケアの充実・質の向上を目指している。

2) 看護課の役割

看護師の主な役割は、医療的ケアの実施と健康の維持増進のためのケアを行うことである。呼吸・食事・与薬・排泄・睡眠・清潔・体位がスムーズにできているか、あらゆる援助ときめ細かな観察を行っている。自力でできない腹臥位の励行・ポジショニング（排痰）・吸入・分泌物の吸引、心電図モニター等の画面に気を配り、血中酸素濃度状況等を観察し異常の早期発見に努めている。また、生活支援員と共に日常生活援助を行っている。

3) 生活支援課の役割

生活支援員の主な役割は、療育活動や生活支援援助である。日常生活支援や身体機能・生活能力向上に向けた援助、食事や衣服の着脱、入浴、排泄等の生活における、すべての援助を行っている。また、日々の日中活動、各種行事の企画・準備・運営を担い、少しでも施設内での生活が豊かになるように毎日サポートしている。個別支援計画に基づいて、モニタリング、支援計画説明を行い、全職種参加型のカンファレンスを実施し看護・支援の評価を行っている。

4) 看護補助者の役割

看護補助者はチームの一員として主に病棟療養環境整備業務を中心に行っている。居室環境やスタッフステーション、処置室の整理と清掃、衛生材料やリネンの請求・収納、カルテの整理、帳票補充を行い、看護師・支援員業務のサポートをしている。

5) 看護部の役割（看護・療育）

看護課・生活支援課が協力し、看護・支援・補助者がそれぞれの役割を担いながら、協力体制をとり、看護・療育を実践している。生活介助のあらゆる面で、個性を重視し、日中活動の充実や季節に合わせた行事を取り入れ、重症心身障害児者の生活が豊かで安心した日常になるように取り組んでいる。また、診療部と他職種連携を深め、利用者の意志決定を家族・地域も含めて支援していくために、それぞれの役割を遂行すること、各課が外部研修・院内研修に積極的に参加し、各自の知識・技術を高めることはもちろんのこと、重心施設協議会・家族会などに参加し、地域・全国への繋がりを中心を担うことも大切な役割である。

業務・統計編

I 業務実績

1 入・退所者の動向

生活支援課 正保 美穂・和田 欣久

1) 入所（2025.3.31 現在）

(1) 入退所者数

		2024 年									2025 年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18 歳 未満	入所													0
	退所													0
18 歳 以上	入所	1	1	1			2		1	1		1		8
	退所	1		1				1	1					4

上記の表には、他院へ入院のため一時的に転院した方の転院・再入院を含む。

(2) 入所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18 歳未満	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18 歳以上	37	37	37	37	37	39	39	39	39	39	40	40
合計	38	38	38	38	38	40	40	40	40	40	41	41

(3) 入所者の男女比

	男	女	合計
人数	28 名	13 名	41 名
比率	68.3%	31.7%	100%

(4) 入所者の年齢

最高年齢	57 歳 1 か月
最低年齢	17 歳 4 か月
平均年齢	34 歳 6 か月

2) 短期入所

(1) 利用実績

				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期	相模原市	18歳未満	人数	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	5
			延べ日数	0	2	0	5	5	0	5	0	0	0	0	4	21
		18歳以上	人数	8	10	10	8	6	3	9	7	5	8	5	7	86
			延べ日数	73	58	87	85	50	19	63	47	42	50	22	50	646
		合計	人数	8	11	10	9	7	3	10	7	5	8	5	8	91
			延べ日数	73	60	87	90	55	19	68	47	42	50	22	54	667
	市外	18歳未満	人数	1	0	2	2	1	1	0	3	0	2	1	2	15
			延べ日数	4	0	10	6	3	4	0	11	0	6	2	7	53
		18歳以上	人数	5	7	3	7	7	10	10	8	9	9	3	9	87
			延べ日数	27	33	13	37	39	44	58	40	47	48	26	74	486
		合計	人数	6	7	5	9	8	11	10	11	9	11	4	11	102
			延べ日数	31	33	23	43	42	48	58	51	47	54	28	81	539
	合計	18歳未満	人数	1	1	2	3	2	1	1	3	0	2	1	3	20
			延べ日数	4	2	10	11	8	4	5	11	0	6	2	11	74
		18歳以上	人数	13	17	13	15	13	13	19	15	14	17	8	16	173
			延べ日数	100	91	100	122	89	63	121	87	89	98	48	124	1132
		合計	人数	14	18	15	18	15	14	20	18	14	19	9	19	193
			延べ日数	104	93	110	133	97	67	126	98	89	104	50	135	1206

(2) 男女別利用年齢

図1：2024年度 短期利用者数（年齢・男女別）

	6～18歳未満	20歳未満	30歳未満	40歳未満	40歳以上
男性	4	3	10	3	1
女性	4	1	10	0	1

病棟内で感染症が発生した場合は、やむを得ず短期利用停止を行った時期があった。
 また、家族や本人の体調不良等でキャンセルになることもあったが、4月からは2～3床の運用を行ってきた。空床を活用して中期の措置入所の受け入れも行い、家族のニーズに合わせて対応を行った。利用希望に添えない場合や、日程の調整が難しい場合はお断りをする事もあったが、キャンセルなどで空床が生じた際は、相模原市在住の利用者を中心に連絡してすみやかに調整を行い、短期利用率の向上に努めた。利用希望の主な理由は、家族のレスパイト目的、介護者の入院、看護負担の軽減などがあげられるが、近隣施設の利用が出来なくなったという理由もあがっていた。医療ケアの増加、家族・利用者の高齢化、社会参加などの理由で、今後も利用希望が増加すると考えられる。
 利用者の所在地は相模原市在住者が増えている一方で、八王子市や日野市在住者も全体の半分近く利用されている。他市では町田市・愛川町・厚木市・川崎市・平塚市・海老名市・横浜市の方もいる。遠方では国立市・東大和市から利用されている。

(3) 相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所	相談	3	4	5	2	1	5	4	3	1	2	2	2	34
	見学	1	4	0	3	1	5	4	1	3	1	0	0	23
	面談	0	1	0	1	3	2	3	1	1	2	2	2	18

短期入所の相談は、相談事業所の他、家族からの問い合わせもあるため、重複して相談が入ることも多い。情報を整理し、直接家族と連絡を取りながら、短期入所に必要な手続きなどを説明している。相談内容は兄弟姉妹の行事のため、介護者の仕事の都合（出張など）や入院など、急な予定が入ったための相談とレスパイト目的で定期的に利用したいという相談が主であった。

短期利用相談者の所在地は、相模原市内 13 件、神奈川県内では川崎市 1 件、厚木市 5 件、伊勢原市 2 件、海老名市 2 件、平塚市 1 件、横浜市 1 件、座間市 2 件、茅ヶ崎市 1 件、東京都内では日野市 2 件、八王子市 2 件、東大和市 1 件、町田市 2 件である。特に厚木市、伊勢原市、座間市等に近い短期入所先となっていた施設や今まで利用していた近隣の施設の短期入所が難しくなった為、当施設の利用を検討するきっかけとなった方が多いのが、2024 年度の特徴である。また、現在利用中の方からの口コミや、以前利用してからコロナの流行をまたいで数年間利用が無かった方からの問い合わせ、現在利用中の方が所属している相談事業所が当施設を他の方に紹介して利用に至る方も増えてきている。

3) 主病名（主要病因分類別）

単位：人 2025.3.31.現在

時期	原因	診断内容	入所		短期入所*1	
			I*2	II*3	I	II
出生前	感染・中毒 (I-A)	1 先天性風疹				
		2 先天性梅毒				
		3 先天性トキソプラズマ症				
		4 その他感染・中毒				
	代謝障害 (I-B)	1 糖質代謝障害				
		2 アミノ酸代謝障害				
		3 脂質代謝障害				
		4 プリン代謝障害				
		5 その他代謝障害	2			
	母体疾患 (I-C)	1 妊娠中毒症				
		2 その他の母体の疾患によるもの				
	不明の要因 (I-D)	1 原発性小頭症又は狭頭症	1			
		2 水頭症	1			
		3 神経皮膚症候群	2			
		4 変性疾患	1			
	染色体異常 (I-E)	1 ダウン症候群			1	
		2 その他の染色体異常	1		6	
	特殊型・その他 (I-F)	1 特殊型（その他）	2		2	
		(内訳)全前脳胞症			1	
		ヌーナン症候群滑脳症				
		滑脳症	1			
		パリスターキリアン症候群				
		ピエールロバン症候群				
		孔脳症				
		脳梁欠損・異所性灰白質	1			
		コルネリアアデラング症候群			1	
		2 その他不明のもの			4	1
	小計		12	0	15	1
出生時・ 新生児期	分娩異常 (II-A)	1 機械的損傷による脳障害	1			
		2 低酸素症または仮死	7		6	
		3 その他の分娩異常によるもの				
	新生児期の 異常 (II-B)	1 低出生体重児 AFD 又は LFD	7		1	
		2 低出生体重児 SFD	3		5	1
		3 高ビリルビン血症				
		4 感染症に起因する脳損傷			1	
		5 新生児痙攣				
		6 その他新生児期の異常				
	その他 (II-C)	1 血管障害、頭蓋内出血を含む			1	
		2 その他不明のもの				
	小計		18	0	14	1
周産期以降	外因性障害 (III-A)	1 髄膜炎・脳炎			3	
		2 脳外傷	5		1	
		3 中毒性脳症				
		4 予防接種による脳炎・脳症				
		5 その他の外因によるもの	1			
	症候性障害 (III-B)	1 血管障害				
		2 てんかん	3		8	
		3 頭蓋内腫瘍				
		4 脳症	1		2	
		5 精神障害による発達障害				
		6 その他の症候性障害	2			
	その他 (III-C)	1 環境因子による発達遅滞				
		2 1以外のもの				
		3 その他不明のもの	1			1
	小計		13	0	14	1
総計			43	0	43	3

*1 は 2023 年度に短期利用した実人数

*2 は重度知的障害（I Q ≤35 相当）かつ重度肢体不自由（身障 1～2 級相当）

*3 は重度知的障害あり、肢体不自由は I より軽いもの

4) 入所者の障害度分類 (2024 年 4 月 1 日現在)

施設長 村上研一

(1) 大島分類

(計 38 名) IQ

21	22	23	24	25	80
0	0	0	0	0	
20	13	14	15	16	70
0	0	0	0	0	
19	12	7	8	9	50
0	0	0	2	0	
18	11	6	3	4	35
0	0	0	0	4	
17	10	5	2	1	20
0	0	0	4	28	
走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり	0

上段:分類

下段:人数

(2) 超重症児者、準超重症児者数

重症児スコア	人数(人) n=38		比率	2023 年 4 月 1 日 (n=38)		
超重症児者 (25 以上)	18歳未満	0	0%	18歳未満	0	0%
	18歳以上	0		18歳以上	0	
準超重症児者 (10~24)	18歳未満	1	26.3%	18歳未満	2	26.3%
	18歳以上	9		18歳以上	8	

(3) 障害支援区分

※学童 (1 名) を除く

区分	男	女	計	2023 年 4 月 1 日
5	0 人	0 人	0 人	1 人
6	28 人	9 人	37 人	37 人

(4) 医療的ケアの有無

医療的ケア	年齢	人数(人)	割合	2023 年 4 月 1 日	
有	18歳未満	1	52.6%	2 人	52.6%
	18歳以上	19		18 人	
無	18歳未満	0	47.4%	0 人	47.4%
	18歳以上	18		18 人	
計		38	100%	38 人	100%

2 教育研修の実績

看護部長 平川 千鶴子
看護師長 本多 薫

1) 施設内教育研修実績

(1) 教育研修

月	日	テーマ	講師	参加者
4月	3.24	権利擁護虐待防止研修（VTR 視聴）	外部	51
	12.19	* 医療安全研修 （チーム医療における医療対話推進のスキル）	学研 e ラーニング	54
	26	衛生委員会研修（医療職のためのメンタルヘルス）	学研 e ラーニング	55
5月	29	土砂災害対策研修（災害時の非常食について）	管理栄養士・事務員	17
	31	* 感染防止対策研修（医療廃棄物の分別法・手洗い）	看護師長・看護師	54
6月	26	医療機器研修（医療ガスについて）	商機産業	22
7月	9	処遇改善研修	事務課長	12
	29	虐待防止研修（事例検討・GW）	生活支援員	41
9月	27	権利擁護研修（意思決定支援について）	生活支援員	43
11月	20	* 感染防止対策研修（排泄介助時の感染対策）	看護師長	54
1月	30	* 医薬品安全研修（医薬品副作用被害救済制度について）	薬剤科長	41
2月	25	児童福祉法研修（児童虐待防止法について）	生活支援員	47
3月	6	BCP 対策研修（BCP の目的・作成意義について）	事務課長	18
	24	医療安全研修（移動介護について）	生活支援員	35

* は法定研修

研修内容は現場で活用できる知識や技術が習得できる実践形式と一般的な知識を習得する座学が主となっている。法の改訂に伴い、知識の上書きも求められたため、研修は欠かせない学びの場となっている。しかし集合研修の場所・時間の確保が難しい状況となっているため、今後は研修方法の検討が必要である。新たな研修方法として今年度は e ラーニング研修を4月にお試しとして実施した。今後は導入を検討していきたい。

研修に参加できなかった職員は、VTR 録画を後日視聴しアンケートを回収している。その他に職員は外部研修や重症心身障害児者施設協議会などが主催する学会や研究会に参加し、知識・技術の向上、情報交換に努めている。

2) 施設外教育研修実績

(1) 公費参加

事務部主任 馬上 歩

研修日	参加者	研修テーマ
5/19	看護 1	ACP ファシリテーター養成研修
5/23-24	医師 1 支援 2 事務 1	日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会
6/14	看護 1	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
6/21	看護 1	重症心身障害児者に特有の呼吸ケア、呼吸器管理、日常ケアについて
6/24	看護 1	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
6/26	看護 1	神奈川県看護協会相模原支部 支部大会記念講演会
7/13	心理 1	重症心身障害児者に関わる心理担当者講習会
7/18-19	支援 1	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者更新研修
7/28	看護 1	相模原市災害時医療救護対策研修会・訓練
8/26	薬剤 1	診療所対象研修会
9/5-6	看護 1	日本重症心身障害福祉協会 研修会
9/9-18	看護 1	医療安全基礎講習会
9/10、9/26	支援 1	サービス管理責任者更新研修
9/21	支援 2	職員研修 実践報告会
9/2、9/26	看護 1	神奈川らくらく介護研修
10/2-4	看護 1	第 35 回重症心身障害療育学会学術集会
10/4	OT 1	国際福祉機器展
10/30-11/1	看護 1	全国重症心身障害児者施設職員研修会 看護研究会コース
11/2-9	支援 1	全身障害性ガイドヘルパー養成研修
11/2-4	薬剤 1	日本医療薬学会年会
11/22	事務 1	年金委員表彰状伝達式および研修会
11/21-22	PT 1	全国重症心身障害児者施設職員研修会 医療技術管理コース
11/28-29	医師 1 看護 2 支援 1	日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会
12/8	支援 1	神奈川県心身障害児者福祉促進大会
12/11	支援 1	神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修
12/12	栄養 1	重症心身障害児者の摂食嚥下セミナー
12/12	支援 1	医療ケア児者、重心障害児者の地域生活を支えるための医療型短期入所サービスとライフステージにおける支援
12/17	薬剤 1	療養病床対象研修会
12/18	支援 1	福祉施設・在宅サービスにおける感染予防リーダー育成研修
1/16-17	支援 1	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修
1/17	看護 1	皮膚トラブル予防と対処法講座
1/22	支援 1	神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会 意思決定支援研修
2/7	薬剤 1	精神科領域研修会
2/18	薬剤 1	第 1 回 NST 研修会
3/19	薬剤 1	第 2 回 NST 研修会

(2) 施設外講師派遣実績

なし

(3) 資格取得実績

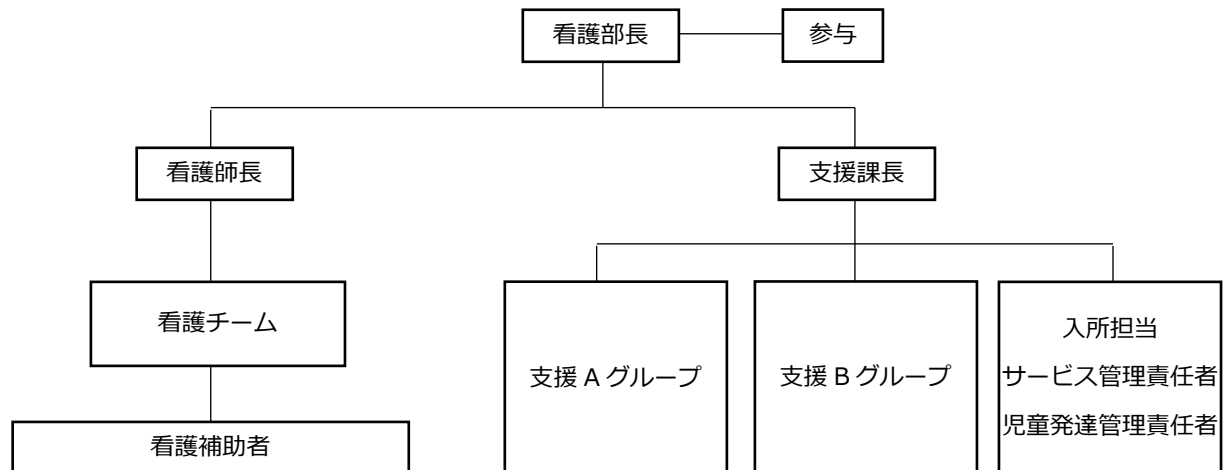
職種	人数	資格
生活支援員	2	サービス管理責任者
生活支援員	1	児童発達管理責任者

3 看護業務の実績

看護部長 平川 千鶴子

1) 看護部体制

(1) 看護部組織図



(2) 許可病床数と看護・介護職員配置

許可病床数 50 床 看護単位 1 看護単位
看護・介護配置人数 看護 13 対 1 (介護職 3 対 1)

(3) 看護方式 モジュール型看護方式

(固定チームナーシングとプライマリーナーシングの折衷型)

(4) 支援体制 チーム制と担当制

(5) 勤務形態 二交代+変則勤務

(6) 勤務時間 (子育てやプライベートに配慮して細やかな勤務時間を導入している)

勤務の種類	看護課	支援課
早出	7:30~16:30	7:30~16:30
日勤	8:30~17:30	8:30~17:30
A1	9:00~16:00	9:00~16:00
A2	8:30~12:30	
A3	9:00~14:00	
A5	8:30~16:30	
A6	8:30~13:30	
遅出		11:00~20:00
才 4		11:00~19:00
夜勤	16:30~8:45	16:30~8:45

その他、午後半日勤務などにも柔軟に対応している

(7) 入退職状況

入職者は看護師 2 名と生活支援員 2 名の 4 名、退職者は生活支援員 1 名。

職員の定着に繋がり、離職率の改善があった。今後も職員が定着できるよう

看護部の指導・教育体制の見直しを図り、看護・介護の質の向上に繋げ、職員が安心して業務ができる職場環境を継続していく。

(8) 職員数の推移(毎月1日現在)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常勤	看護部長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	看護師	10	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12
	生活支援	25	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25
	補助者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	計	37	39	39	39	39	40	40	40	40	39	39	39
非常勤	看護師	21	20	20	18	18	18	17	17	17	16	16	15
	准看護師	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
	生活支援	5	4	4	3	3	3	3	3	2	2	2	2
	補助者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	計	29	27	27	24	24	24	23	23	21	21	21	20
	合計	66	66	66	63	63	64	63	63	61	60	60	59

2) 看護部の活動

(1) 看護部目標

- ① 利用者への、安全・安心な看護・介護サービスを届けます
 - ・ 家族・利用者に寄り添い心のこもったケアを実践します
 - ・ 相手の立場に立った言動を心がけます
 - ・ すべての異常の早期発見、連絡相談を速やかに行います
 - ・ 基本に立ち返り、安全性を考慮した生活介助を実施します
 - ・ 整理整頓に努めます
 - ・ 感染防止対策を理解し実践します
- ② 職員同士が尊重し合える、風通しの良い職場風土を作ります
 - ・ 職員が共に認め合い、助け合い、励まし合える声掛けを行います
 - ・ 挨拶の励行、笑顔での対応を行います
 - ・ 確認の声掛けや相手の同意を得た対応を行います
 - ・ 相談ができる関係性を築きます
 - ・ 業務改善・働き方の改善に努めます

(2) 目標達成状況と評価

目標の評価は年2回、職員にアンケートを配布し、達成状況を評価した。

「出来た」「出来ない」を5～0の6段階にして、点数を%で表した。回収率は100%であった。目標の達成率の結果は、個人評価では看護部目標①は70.8%、目標②は68%であった。看護部目標の達成率は69.5%という結果で、前年度より達成率は改善されているが、今後も専門性を活かし、利用者へのより良い看護・介護を目指していきたい。

(3) 人材育成

新入職員に対して丁寧にオリエンテーションを行い、複数の人員でOJT(on the job training)を基本に職場に適應できるように援助、支援を行った。施設内研修は時間内に行われ業務調整を行いながら多くの職員が参加できるよう配慮した。WEB研修やリモート研修も増え、施設内で受講出来ていた。また、対面での研修

も行われるようになり、外部研修に参加する職員もいた。また、今年度は重心協主催の学会に多くの職員が参加することができた。外部情報を収集する機会となり、より多くの学びが深められた一年となった。

(4) 研修・実習生の受入

- ① 相模原看護専門学校
- ② 津久井高校「福祉課」
- ③ 聖マリアンナ医科大学「早期体験実習」
- ④ フェリシアこども短期大学（保育課）

(5) 日常看護生活支援

①医療的ケア実施延べ数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
吸引	411	473	498	544	534	356	455	435	427	437	401	454	5112	4625
呼吸器	0	0	0	6	0	9	6	0	0	0	0	0	21	145
経鼻栄養	126	106	98	118	93	98	117	60	68	103	84	91	1162	1062
胃腸瘻	396	415	410	429	434	400	439	409	444	481	401	454	5112	4512
点滴	19	13	4	3	16	7	2	0	16	8	13	0	101	153
歯科受診	130	113	149	188	149	191	157	152	147	146	80	157	1759	1811
耳鼻科受診	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0
褥瘡	30	31	30	31	31	30	31	30	31	42	29	31	377	366
他科受診	3	11	6	7	4	5	4	4	8	4	1	7	64	50

歯科受診 おおい歯科による訪問診療

耳鼻科受診 総合相模更生病院定期受診

他科受診 看護師の付添で更生病院・外科（J-PEG 交換）定期受診や検査受診、皮膚科・眼科受診など実施。また家族と共にかかりつけ外来受診

その他 イレウスなどで、総合相模更生病院へ転院

②入浴介助

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
機械浴	253	347	272	0	0	0	184	373	233	121	19	86	1889	3559
シャワー	263	200	237	558	541	532	397	160	207	176	53	158	3482	2290
清拭	18	5	3	1	8	0	1	2	106	1	不明	不明	145	287

* 2～3 月はコロナ禍で人数詳細不明

③面会・外出・外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
外出	0	0	3	5	5	6	2	0	7	1	0	12	41	42
外泊	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	2	7	0
面会	39	30	36	46	36	86	34	38	38	32	13	45	473	367

面会・外出・外泊の制限を緩和し昨年度までは外泊を禁じていたが今年度は外泊される利用者も増えた。家族と共に過ごす時間が増え、また個別外出の機会も多く設けて地域社会に参加できる時間を増やしていきたい。施設で過ごしていても季節を感じられる工夫を行い、楽しく元気に生活できるよう配慮していきたい。

(6) 療育

① 日中活動実績

【 月曜日グループ 】

人数：男女 13 名 実施曜日：月曜日

実施月	活動内容	計
4 月	誕生日会・花いちもんめ、カーネーション製作 ※感染症対策の為 2 回中止	2 回
5 月	外気浴、母の日カード製作、スヌーズレン、絵本の読み聞かせ、テープ絵本	6 回
6 月	外気浴・ボール遊び、父の日メッセージカード、マッサージ、七夕絵具制作	4 回
7 月	外気浴・スヌーズレン、玉入れ、ボーリング、折り紙展示、お茶会「スイカアイス」	5 回
8 月	お茶会「カップラーメン」、誕生会・冷マッサージ、塗り絵、夏祭り制作	4 回
9 月	外気浴、うちの色付け・歌、ボール的当て ※グループ活動ではなく個別活動	3 回
10 月	外気浴、ベランダ外気浴、スヌーズレン	3 回
11 月	芋ほり・かるた探し、玉入れボーリング、壁当てゲーム	3 回
12 月	個別活動、ボール回しゲーム、的当て ※感染対応の為 2 回中止（1 回個別活動実施）	3 回
1 月	長竹神社参り、かるた大会 ※感染対応の為 2 回グループ活動ではなく個別活動となった。	2 回
2 月	※コロナ感染症対応の為 4 回中止	0 回
3 月	ひな祭り顔はめ写真会、誕生日会・ボーリング、歌・ボール投げ競争、ボールと風船で遊ぼう お茶会「いちごシェイク」	5 回

【 水曜日グループ 】

人数：男女 13 名 実施曜日：水曜日

実施月	活動内容	計
4 月	お茶会「ドーナツと紅茶」、的当てゲーム ※感染対応の為 2 回個別活動実施	2 回
5 月	歌・母の日カーネーション作り、外気浴 2 回、お茶会「抹茶オレと羊羹」、紙芝居	5 回
6 月	父の日メッセージカード作り、お花作り、七夕短冊制作、お茶会「台湾カステラと中国茶」	4 回
7 月	七夕短冊作り、お茶会「スイカアイス」、誕生日会、折り紙展示会、プリズムアート	5 回
8 月	貼り絵、ポンポンアート、納涼祭製作	3 回
9 月	シャボン玉外気浴、スヌーズレンほたる鑑賞と納涼祭製作、外気浴	3 回
10 月	玉入れ 2 回、数字を揃えてピン倒し、ハロウィン仮装でボール投げ、Halloween 的当て	5 回
11 月	玉入れ、外気浴・ボール遊び、スヌーズレン・歌	3 回
12 月	外気浴 2 回、テーブル玉入れ ※感染症対応の為中止	3 回
1 月	スヌーズレン・紙芝居、日光浴、かるた大会、誕生日会・ひなたぼっこ	4 回
2 月	※感染症対応の為 2 回中止 入所者紹介・外気浴、テラス外気浴	2 回
3 月	ひな祭り顔はめ写真会、ボーリング、お茶会「いちごシェイク」、T ボールボーリング	4 回

【 木曜日グループ 】

人数：男女 12 名 実施曜日：木曜日

実施月	活動内容	計
4 月	お茶会「ドーナツ」、絵具制作 ※感染対応の為 2 回個別活動実施	2 回
5 月	母の日カーネーション製作、スヌーズレン・読み聞かせ、母の日カード作り、外気浴 2 回	5 回
6 月	父の日メッセージカード作り、納涼祭準備(塗り絵)、お茶会「杏仁豆腐・中国茶」歌・七夕短冊作り	4 回
7 月	七夕短冊作り、スヌーズレン、紙芝居おむすびころりん（おにぎり作り）、納涼祭製作（花火）、折り紙展示会	5 回
8 月	紙芝居、貼り絵、お茶会「ラーメン」、外気浴、カラオケ	5 回
9 月	納涼祭飾り付け、スヌーズレンでほたる鑑賞・外気浴、誕生日会、シャボン玉外気浴	4 回
10 月	スヌーズレン、玉入れ、シャボン玉外気浴、外気浴	4 回
11 月	芋ほり・かるた大会、紙芝居・絵本読み聞かせ、マッサージ、紙コップロケット	4 回
12 月	アロマスヌーズレン、テーブル玉入れ、スヌーズレン ※感染症対応の為 1 回個別活動実施	3 回
1 月	スヌーズレンと紙芝居、ボール遊び、かるた大会	3 回
2 月	※感染症対応の為 2 回個別活動実施、外気浴、ボーリング	2 回
3 月	ひな祭り顔はめ撮影会、スヌーズレン・紙芝居、ボール入れ競争・歌	3 回

【 日曜日 】

人数：全利用者対象 実施曜日：日曜日

実施月	活動内容	計
4 月	お楽しみ会「長竹クイズ大会」、お楽しみおやつ	2 回
5 月	兜をかぶってなりきり仮装撮影会、母の日の合奏、三味線と歌のボランティア、お楽しみおやつ	4 回
6 月	お楽しみ会「青森南部会（ボランティア）」、お楽しみおやつ、七夕飾り作り	3 回
7 月	お楽しみ会「水鉄砲で的当て」、楽しみおやつ	2 回
8 月	お楽しみ会「はなぐるま（ボランティア）」、お楽しみおやつ	2 回
9 月	納涼祭、夕涼み会	2 回
10 月	誕生日会、お楽しみ会「カラオケ」、お楽しみおやつ	3 回
11 月	お楽しみ会「カラオケ」、お楽しみおやつ	2 回
12 月	アドベントカレンダーとクリスマス絵本読み、お楽しみ会「クリスマス会」、お楽しみおやつ	3 回
1 月	お楽しみ会「かるた取り大会」、お楽しみおやつ	2 回
2 月	※感染症対応の為お楽しみ会中止 お楽しみおやつ	1 回
3 月	お楽しみ会「チョコバナナ」、お楽しみおやつ	3 回

【 誕生日会 】

人数：全利用者対象 実施曜日：各利用者の誕生日

実施月	活動内容	計
利用者の誕生日当日に実施	利用者と職員で祝う	40 回

【グループ活動及び日曜日以外の個別活動等】

実施月	活動内容	計
4月	絵本の読み聞かせ（イソップ物語）、個別活動（絵本読み）DVD鑑賞、外気浴・マッサージ、風船バレーゲーム・おしゃべり会、花作り、ベランダ外気浴・工作、シャボン玉 外気浴・花作り、ビンゴ大会、スヌーズレン・ボール遊び	9回
5月	スヌーズレン	1回
7月	地域交流会（お囃子）	1回
11月	お絵描き・塗り絵	1回
12月	外気浴、紙芝居・絵本の読み聞かせ	3回
1月	初詣イベント、書初め、外気浴、歌・カセットテープ紙芝居、絵本「大きなカブ」読み聞かせ、アロママッサージ、絵本の読み聞かせ「ブレーメン」とハンドベル	9回

【個別外出】

実施月	外出内容	計
4月	津久井湖城山公園散策 1名、服部牧場 2名	3名
5月	服部牧場 2名	2名
7月	北公園 1名	1名
8月	マクドナルド 2名	2名
9月	アリオ橋本 1名	1名
11月	アリオ橋本 2名、ミスタードーナツ 1名	3名
12月	服部牧場 1名	1名
1月	夢造りパン工房 1名	1名
3月	城山公園 1名、麻溝公園 1名、アリオ橋本 2名	4名

② 外出活動：ドライブ倶楽部の活動状況

・年度を通しての総括

ドライブ倶楽部の活動を楽しみにしてくれている利用者も多く、1年間で平等に参加できるよう割り振りをを行い実施している。

悪天候や感染症対応等でドライブが中止になることもあったが、ほぼ予定通り実行できている。

ドライバーも協力的で行きと帰りで違う道を通り、利用者に違う景色を見させてくれている。

1時間程のドライブだが利用者とコミュニケーションを図り、向き合えるとても大切な時間を共有できている。

今年度の後半より、ドライブ先での散策も少しずつ取り入れている。

今後は自動販売機での飲み物購入や販売店での物品購入なども取り入れ、利用者の楽しみの1つとして実施していく。

月	日	行先	参加人数
4月	5日	相模湖林間公園	2名
	12日		2名
	19日		3名
	26日		2名

月	日	行先	参加人数
5月	3日	祝日のため実施なし	
	10日	高田橋	2名
	17日	大島河原	3名
	24日		2名
	31日		3名

月	日	行先	参加人数
6月	7日	服部牧場 宮ヶ瀬	3名
	14日		3名
	21日		2名
	28日		3名

月	日	行先	参加人数
7月	5日	大島河原	3名
	12日		2名
	19日		3名
	26日		3名

月	日	行先	参加人数
8月	2日	服部牧場	2名
	9日		3名
	16日	台風のため中止	
	23日	服部牧場	2名
	30日	台風のため中止	

月	日	行先	参加人数
9月	6日	服部牧場	3名
	13日		3名
	20日		3名
	27日		3名

月	日	行先	参加人数
10月	4日	大島河原	3名
	11日	服部牧場・宮ヶ瀬	2名
	18日	大島河原	3名
	25日	他利用者の通院で車を使用するため中止	

月	日	行先	参加人数
11月	1日	大島河原	2名
	8日		3名
	15日		2名
	22日		2名
	29日		3名

月	日	行先	参加人数
12月	6日	服部牧場	3名
	13日	大島河原	3名
	20日	感染症対応のため中止	
	27日	仕事納め式のため中止	

月	日	行先	参加人数
1月	3日	冬期休暇期間中のため実施なし	
	10日	職員人数の不足のため中止	
	17日	服部牧場	2名
	24日		2名
	31日	感染症対応のため中止	

月	日	行先	参加人数
2月	7日	感染症対応のため中止	
	14日		
	21日	大島河原	2名
	28日		2名

月	日	行先	参加人数
3月	7日	宮ヶ瀬	3名
	14日	城山公園	3名
	21日		2名
	28日		3名

③ ボランティア等の活動状況

月	日	活動	活動内容
5月	19日	お楽しみ会 ボランティア	青森南部会：津軽三味線と民謡
			【様子】 2名のボランティアさんを半円で囲む様にし、大きな音が苦手と思われる利用者を後方より観覧するように着席した。 みんな飾りつけられた大きなねぶたの絵をジッと見つめ、一曲目は三味線のための演奏で柔らかい雰囲気より始まった。その後は、三味線と歌が始まり、身体を強く緊張していた利用者は、徐々に身体の力が抜けているのがよくわかった。普段とは違う穏やかな表情をしている利用者や、ボランティアの「手拍子できる方お願いします。」の声掛けに、職員と手拍子をしながら、身体を揺らしたりと、それぞれに楽しんでいる様子が見られた。 音に驚いたり、発作してしまう利用者もなく楽しい雰囲気のまま終了する事ができた。
6月	16日	お楽しみ会 ボランティア	青森南部会：津軽三味線と民謡
			【様子】 ねぶた祭りの大きな神輿絵を背に、三味線・太鼓・歌の民謡を披露してくれた。 北海道のソーラン節や山形の曲等、祭りの明るいテンポに職員と一緒に手拍子を始める利用者がいたり、ジッと聞き入っている利用者がいたり、みんなニコニコと笑顔で歌と三味線の音に聞き入っていた。 「絶対行かない」と話していた利用者も歌が始まるとニコリと笑顔になり最後まで機嫌よく楽しんでいた。みんなしっかり演奏を聞いており、ウトウトしてしまう利用者は一人もいなかった。 最後の感想では、マイクを向けられて「ありがとうございました」や「また来て下さい」と嬉しそうに伝えてくれた。
8月	18日	お楽しみ会 ボランティア	はなぐるま：クラリネットやコントラバスの演奏
			みんなが好きな曲をたくさん演奏してくれた。 みんなマラカスや鈴を持ち、職員と一緒にリズムをとりながら、良い笑顔を見せてくれ楽しんでいた。マイクを向けられると一緒に歌っている利用者もいた。 風になりたいの曲が始まると、急に笑顔になる利用者がいて「知っている曲だ!」というような表情をしていたので、「この曲知ってますか?」と尋ねると曲名を得意げに教えてくれた。 アンコールではお誕生日の利用者の好きな曲をリクエストし、森のくまさんを演奏してくれ、嬉しそうな笑顔が見られた。 利用者や職員からは又来て欲しいと声が聞かれた。

9 月	29 日	納涼祭 ボランティア	風船番長あっくん：バルーンアート
			午前(外部向け)と午後(長期利用者向け)の 2 回、正面駐車場にてパフォーマンスを行ってくれた。 参加者を交えたパフォーマンスや大きいドラゴンを作るパフォーマンス等に拍手が起こり、大いに盛り上がった。 午前、午後共に外部の方も利用者もその家族も皆笑顔が溢れていた。最後に利用者ひとりひとりに可愛いキャラクターのバルーンアートをプレゼントしてくれ、皆喜びながらどのキャラクターにするか選んでいた。
			ウクレレマイスターズ：支援学校の教員バンド 盛り上がる曲を多く演奏し歌ってくれ、利用者の笑顔が多く見られた。支援学校の先生方で結成されたバンドの為、利用者の事を知っている先生方も多く、その方の好きな曲も演奏してくれ、利用者は嬉しそうに声を出して喜んでいた。 数年ぶりに来られたが、利用者も先生方を覚えている様子でとても楽しんでいた。

4 薬剤科業務の実績

薬剤科長 宮地 正和

1) 勤務形態

常勤：薬剤師 1 名

2) 業務実績

病棟業務の一環である入所者事前面談に安定して参加でき、これにより病棟時間も増加した

(1) 処方箋枚数等

外来処方箋	病棟処方箋	外来注射箋	病棟注射箋	持参薬鑑別件数	院内製剤件数
70	1,900	0	177	209	4 (クラスⅢ)

(2) 病棟定数薬管理

年度末の定数・延べ使用実績は以下のとおりであった

	1 階		2 階		3 階	
	病棟	救急カート	病棟	救急カート	病棟	救急カート
定数品目数	13	13	13	13	16	13
延べ使用回数	235	16	721	2	3,456	1

(3) 薬剤業務件数

病棟時間 (hr)	プレアボイド 3	処方提案で変更	処方提案で減量	検査の提案
399.5	1	24	9	60
疑義照会	問い合わせ受け	退院時薬剤指導・薬剤サマリ作成		事前面談
29	82	2		19

(4) 医薬品情報管理室業務

DI ニュース発行 : 定期 8 件、臨時 16 件

(5) 時間外入室状況

年 29 回、48 品目払出

(6) 医薬品購入・廃棄実績

購入：7,840,497.5 円 (税込)

廃棄： 9,131 円 (薬価)

3) 教育研修担当実績

施設内教育研修 : 1 月 30 日 医薬品安全管理研修

実務実習・見学応需 : 15 名

5 栄養科業務の実績

管理栄養士 牧 由香

1) 勤務体制

常勤管理栄養士 1 名、常勤栄養士 1 名（委託）、常勤調理師 1 名（委託）
8 月より管理栄養士の変更

2) 業務実績

(1) 栄養管理

①栄養管理計画書

毎月入所者全員に対し、当月の体重・3 ヶ月・6 ヶ月前の体重との比較・摂取栄養量・摂取水分量など、栄養的な評価を行っている。

②支援計画書説明

支援計画書に記入している栄養ケア計画書は、栄養補給の内容・嗜好の変化等を記している。

(2) 給食管理

①お楽しみ食

毎月第四日曜日、旬の味覚メニューを嚥下食に調整し提供してきた。この日の 15 時に提供する間食は管理栄養士が事前に今月の誕生日の方に選んでもらい提供している。

②食事形態

「嚥下調整食学会分 2021」と「発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類類 2018」を融合させた施設独自の嚥下調整食を提供。軟菜食刻みは、軟菜食であっても咀嚼が難しく口腔内で食塊形成できない方を対象に提供している。

③委託会社による慢性的な人手不足対策

業務効率化と負担軽減を図り、7 月より朝食を既製品ソフト食「クック・デリ」を導入した。

(3) 経管栄養の配送業者の変更

1 1 月より経管栄養の配送業者が変更となり、納品が毎日から週 1 回となった。

3) ミールラウンド

おい歯科に訪問診療を依頼している方が対象で、摂食嚥下専門の歯科医師と共に昼食時にラウンドを実施。多職種で月 1 回、平均 9 名程度入所者のラウンドを行っている。経口摂取者はもちろん経管栄養のみでも口腔内・嚥下の状態などを多職種職者・参加している家族と一緒に確認し、適切な食環境や食事形態の提案・機能を促す訓練法等、摂食機能評価を行っている。

4) 褥瘡ラウンド前ミーティング

褥瘡委員会でラウンドする対象者を事前に決めるミーティングを毎月第三火曜日に行っている。検討資料として年二回の健康診断結果、毎月計測する体重の推移・必要栄養量、毎月の喫食量平均から導く摂取栄養量・摂取水分、カンファレンスの内容を参考にし、ラウンド対象者を選出している。

5) 職員食

一部セルフサービスとする事で適温提供を可能にした。不定期で季節の食材を使ったメニューも提供している。

6 検査科業務の実績

科長 薄井 俊幸

1) 勤務形態

総合相模更生病院中央検査部 兼務 (臨床検査技師が輪番当番)

2) 業務実績

(1) 入所者

(件)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心 電 図		1	19	20	2	2	2	2		3	3	1	55
院内迅速血液検査	6	5	2	1	3	2	2	2	3	1	1		28
尿 検 査										1			1
マイコプラズマ							2						2
コロナ	23	24	6	25	21	16	19	20	19	31	24	19	247
インフルエンザ	8	6	1		1	1	4	1	6	7	10		45
その他													
外 注 検 査	3	21	42	3	5	9	6	36	20	9	7	5	166
合 計	40	57	70	49	32	30	35	61	48	52	45	25	544

(2) 職員

(件)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心 電 図		50	11					27					88
聴 力 検 査		49	12					31					92
血 液 検 査		44	15					27					86
尿 検 査		42	16					31					89
外 注 検 査	1	2	2	2	4	2	2	1	1	1	1	1	20
合 計	1	187	56	2	4	2	2	117	1	1	1	1	375

- ・入所者には、入所時と入所中体調を崩した時に指示により心電図、血液検査、尿検査を実施した。
- ・職員の定期検診を実施した。夜勤勤務者は年2回、他は年1回実施した。
- ・検査機器のメンテナンス管理を実施した。
- ・試薬在庫管理、発注業務を実施した。

7 放射線科業務の実績

科長 鈴木 竜司

1) 勤務形態

総合相模更生病院 放射線科 兼務（診療放射線技師 13 名中 5 名にて輪番担当）

2) 撮影検査実績

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
入所者	15	51	1	10	2	12	3	52	6	12	3	10	177
職員	0	50	11	0	0	0	2	24	6	0	0	0	93
合計	15	101	12	10	2	12	5	76	12	12	3	10	270

※昨年度と撮影検査実績数を比較すると、入所者 17 件増加、職員 3 件減少となった。

・撮影検査内容

入所者：入所時、フォローアップ、経過観察、健康診断などを行った。

職員：入職時検診、定期健康診断などを行った。

3) 使用機器

- ・(株) 島津製作所：MobileArt Evolution（ポータブル機器）
- ・コニカミノルタジャパン（株）：AeroDR 1417HQ 1 枚
- ・コニカミノルタジャパン（株）：CS-7 Portable 1 台
- ・コニカミノルタジャパン（株）画像サーバー：I-PACS EX 1 台
- ・総合的相模更生病院閲覧端末：Infinitt 3 台
- ・AP 更新を行った

上記の機器

- ・コニカミノルタジャパン（株）
- ・(株) 島津製作所

に関しては定期点検（年 1 回）をそれぞれ行った。

4) 放射線科 理念

「安心できる医療を提供する」 「質の高い画像を提供する」

5) 結語

これからも放射線科の理念に基づき入所者に、安心できる医療を提供したいと考えている。

8 リハビリテーション科業務の実績

リハビリテーション科長 日野 英明
作業療法士

1) 勤務体制

常勤 計 2 名 作業療法士 1 名
理学療法士 1 名

2) 業務実績

(1) 障害児者リハビリテーション料のリハビリテーション施設認可

①実施人数及び単位数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2024 年度	2023 年度
人数 (人)	合計	218	231	208	238	213	197	233	203	210	215	183	205	2554	2522
	OT	92	98	93	98	80	85	93	102	95	89	71	79	1075	1059
	PT	126	133	115	140	133	112	140	101	115	126	112	126	1479	1463
単位数 (単位)	合計	641	681	610	705	629	579	691	603	616	637	573	599	7564	7519
	OT	276	294	279	294	240	255	279	306	285	267	241	237	3253	3261
	PT	365	387	331	411	389	324	412	297	331	370	332	362	4311	4258

※2024 年 9 月より 1 階の入所開始。リハビリ介入開始。

また、新規入所者に対しての対応を行う。

前年度同様、年間を通じて利用者への介入し、同程度の実施人数及び単位数となった。

(2) 各療法の実績

①各入所者への介入

各入所児者に対して概ね週 1 回（1～3 単位）以上の頻度で介入した。

②実施内容

運動機能評価・呼吸機能評価・ADL 評価・関節可動域訓練・
基本動作訓練・歩行訓練・呼吸リハ・摂食嚥下評価、訓練・
各補装具のチェック・コミュニケーション支援

9 心理科業務の実績

公認心理師/臨床心理士 柴山 直子

1) 勤務体制

常勤の公認心理師兼臨床心理士 1 名
(2024 年 5 月 1 日より育児休業より復帰)

2) 業務実績

2024 年度の長期入所者に行った心理介入（心理検査、心理療法、及び行動観察）の実施延べ人数を表 1 に示した。公認心理師が復職したため、心理介入は 5 月より実施した。また、復職後しばらくは心理介入場所を整えることと、心理介入のための入所者情報の収集を目的とした行動観察を中心に行い、個別の心理療法や心理検査は 5 月より実施とした。

表 1 2024 年度心理介入の実施延べ人数（人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
心理検査	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	1	1
心理療法	0	4	50	40	52	45	52	41	48	41	47	47
行動観察	0	39	0	0	0	2	1	3	2	2	1	1
人数合計	0	43	52	41	52	47	53	45	50	44	49	49

実施した心理検査は遠城寺式乳幼児分析的発達検査である。

心理療法は入所時情報及び心理検査結果や行動観察を含めた個別の心理アセスメントに基づき、個別に行っている。実施時間は入所者の心身状態に合わせて 10～30 分程度であった。実施頻度はアセスメントに基づき、月 1 回、2 週に 1 回、週 1 回と各入所者の個別性に合わせて決定した。

介入場所はスヌーズレン室や応接室、ベッドサイドなど、入所者の心身状態に合わせて対応した。

社会性やコミュニケーション能力の維持向上や心地よい感覚の模索など、入所者のアセスメントに沿った個々の介入目標を立てて個別の心理療法を行った。イラストを用いた視覚認知や音楽を介しての聴覚療育、手遊びやシリコンおもちゃ、洗濯板ビーズを用いて触覚の療育を行った。

10 事務課業務の実績

課長 真田 哲也

1) 勤務体制

常勤事務員 4 名

2) 事務一般

人事記録・勤怠管理・給与計算・職員健康診査関連、入退職手続き、入所者の通帳・保険証等管理、窓口対応、保険請求、各種届出、監査・立入検査対応、業務委託管理、物品手配、PC 管理、送迎車運行表作成、車輛・駐車場・建物・設備機器管理等、総務・医事・経理業務を担っている。

3) 施設管理

(1) 定期点検・保守点検

- ・浄化槽保守点検を 2～3 回/月；計 27 回実施
- ・自家用電気工作物点検；6 回
- ・貯水槽清掃・浴槽水質検査；1 回
- ・簡易専用水道検査；1 回

(2) 医療ガス

- ・医療ガス供給設備保守点検；2 回

(3) 調査 ねずみ昆虫等点検調査；毎月

(4) 医療機器点検；島津ポータブル式 X 線装置

4) 防火・防災管理業務

(1) 消防用設備等点検実施 2 回 全て異常無し

- ・消防自主検査（2 回 4 月・10 月）
- ・消防用設備自主点検（2 回 5 月・11 月）

(2) 消防訓練を 1 回/月；計 12 回実施

5) 車輛・駐車場

(1) 施設所有車：送迎用 2 台、福祉車輛 1 台、軽福祉車輛 1 台

(2) 駐車場

- ・敷地内駐車場 2 階 4 台、3 階 7 台
- ・敷地外職員駐車場 21 台

6) 寄付の管理

ワゲン療育病院長竹家族会；イベント用日よけテント 2 張

ワゲン療育病院長竹施設長；イベント用日よけテント 1 張、寄付金

南九州大学 都城にここクラブ；ポケットオルゴール 9 個

7) 施設内教育研修担当実績

(1) 勉強会

2024 年 5 月 29 日「土砂災害対策研修」

2024 年 7 月 9 日「処遇改善加算勉強会」

8) その他

- ・物価高騰による支出過多抑制（日用品費の上限値再引き上げ、非常勤医師給与改訂）

- ・BCP、サイバーセキュリティ研修

2024 年 7 月から会計会社が変わった為、従来、事務部では行ってなかった経理・監査業務が加わり、著しく煩雑な 1 年となった。今後は通常業務として組み込まれるが、創意工夫して対応していきたい。

Ⅱ 会議・委員会活動の実績

生活支援課 短期担当 正保 美穂・和田 欣久

1 入所調整会議

1) 目的

新規短期入所希望者の面談前の情報共有、短期入所希望者の利用可否の検討及び利用日程の調整、居室配置や入退所時間の確認を行い、安全に受け入れる体制を整えていく。

2) 構成員

施設長・看護部長・看護師長・生活支援課長・短期担当職員

3) 開催日時

通常開催 4/23、5/28、6/25、7/23、8/27、9/24、10/29、11/26、12/24
1/28、2/25、3/25

4) 活動内容

入所調整会議では、2 か月後の短期入所の入退所日時と空床調整を行い、病棟業務が円滑に行われるように検討している。

初回入所者は検査を伴い、時間もかかる為、入退所日と受け入れの可否を決定する。なるべく多くの方が利用できるように、利用日数の調整、入退所者の重複の調整、各フロアの居室配置調整を行っている。また、医療ケア度の高い利用者に関しては使用居室が限られているため、利用日程の調整、ケア度に応じて対応の可否を判断決定している。

5) 課題

感染防止対策：感染症発生時には利用制限を設けているため、利用をお断りすることがあった。今後は利用者の希望を確認しながら対応していく。

歩行可能な利用者について：マンパワー不足によって対応が困難な事例もあった。利用者の安全に配慮して対応した。

他施設利用不可の方の希望が増加しており、家族のニーズに対応できるよう検討していく。

2 教育研修委員会

看護師長 本多 薫
(副委員長)

1) 活動目的

社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹における、職員の知識技術の向上を目的に、教育研修委員会を設置している。

2) 構成員

施設長 看護部長(委員長) 事務長 看護師長(副委員長) 生活支援課長
生活支援係長 臨床心理士(書記) 看護師

3) 開催期日

4/2 5/7 6/4 7/2 9/3 10/1 11/8 12/3 1/10 2/4 3/4

4) 活動内容

- (1) 2024 年度 施設内教育研修計画の立案、検討
- (2) 研修に関する調整、予算の協議
- (3) 各委員会が主催する(医療安全管理、感染対策、権利擁護・虐待防止、医療ガス、災害対策、医薬品管理、処遇改善、職場衛生)施設内教育研修の周知、実施
- (4) 法定教育研修のビデオ撮影、欠席者へのビデオ視聴の周知
- (5) 研修終了後のアンケート作成、回収と集計、評価
- (6) 研修、実習受け入れの調整、周知
- (7) 年度末に教育研修の評価と次年度の課題抽出

5) 課題

当日参加できなかった職員のビデオ視聴と研修終了後アンケートを記載してもらったことで、研修の評価が深まった。今後も継続して行く。また、次回の研修希望を聞き、次年度の研修計画に役立てていく事が出来た。研修会の中でグループワークをする時間を設けた場合の運営方法の工夫をして行きたい。

3 感染対策委員会

看護師長 本多 薫
(副委員長)

1) 活動目的

- ・ 感染対策を実行し院内感染予防に努める
- ・ 全職員が感染対策を行えるよう活動を通して教育を行っていく
- ・ 感染症が発生した場合は速やかに対応し拡大を防ぎ収束に努める

2) 構成員

施設長（委員長）、事務課長、看護部長、看護師長（副委員長）、薬剤科長、
リハビリテーション科長、管理栄養士、生活支援主任、看護師

3) 開催期日

4/9 5/14 6/11 7/9 9/10 10/8 11/12 12/10 1/14 2/11 3/11

4) 活動内容

(1) 感染症マニュアルの見直しの実施

- ・ 各論（疾患）：5 類感染症の届け出基準等の追記
- ・ 感染対策マニュアル→マイコプラズマ肺炎の追加
- ・ 新型コロナ感染対策マニュアル→1 階開床に伴い一部改訂

(2) ICT ラウンド」について

- 5、7、9、11、1 月実施
- ・ イエローハザードボックスに時折、規定外のものが破棄されていた→（5/31 研修実施）
- ・ 手洗い時間（15 秒以上）が短いことがある→（手指消毒の研修実施）

(3) 感染情報レポート」の発行

- ・ 年 1 回、委員長（施設長）発行 （2024 年 7 月）

(4) 感染症発生情報（週報）を 1 回/週、必要部署に配布し、委員会の中でも情報共有を行った。（薬剤科長担当）

(5) 院内研修年 2 回実施

- ・ 5 月：PPE の体験、感染廃棄物について
- ・ 11 月：手指消毒・手袋着脱について

(6) その他

- ・ 2025 年 1 月末～2 月：新型コロナウイルス感染症（利用者 10 名・職員 8 名）発症 PPE 物品（N95 マスクを KN95 マスクに変更し使用基準の見直しを行った）
- ・ インフル・コロナ検査キット（ハイブリット型）を職員へ無料配布し試験的使用実施

5) 成果と課題

- (1) 感染症発生時に情報共有に努め対応することができた
- (2) 感染症に対するマニュアルの作成・改訂の継続
- (3) 感染防止対策の他職種連携の推進継続

4 医療安全管理委員会

看護師長 本多 薫
(医療安全管理者)

1) 目的

医療安全管理に関する必要な事項を定め、適切な管理を推進するとともに安全な医療を提供に資する事

2) 構成員

施設長(委員長)、事務長、医療安全管理者、看護部長、看護師長、生活支援課長、薬剤科長、リハビリテーション科長、栄養科主任、臨床心理士、生活支援主任、看護師

3) 開催月日

4/9 5/14 6/11 7/9 9/10 10/8 11/12 12/10 1/14 2/18 3/11

4) 活動内容

(1) インシデント報告の共有、対策の検討、職員への注意喚起方法検討

(2) 今年度のレベル3以上の事例

- ・8月：長期利用者（リフター使用中）

車椅子からベッドへ戻るため体の下にリフターシートを挿入するため上体を前かがみにしたところ、利用者が座っている状態で座面がずれ、膝から床に滑り落ちた。

利用者は下肢を打撲。骨折には至らなかったが、完治までの2週間あまり疼痛や可動域制限、ベッド上安静などにより生活に支障をきたした。

- ・インシデント検討会の実施

その場にいたスタッフから状況を聞き取りし、場面を再現し原因と思われる事象を共有した。

各職種で様々な意見交換が行われた。

- ・対策：リフターシートの使用方法周知、落ち着いた時間帯での移乗介助の検討。

10月より、車いす上で装着していても安全な素材のリフターシートの購入

(3) 家族会との連携

今年度実施された家族会で、インシデント発生時の家族への状況報告が不十分であるという指摘があった。インシデントだけではなく体調変化時なども含め改めて施設内で検討共有することができた。院内での状況を共有し、報告について、だれがどのように行うか連携を密にしていけることができている。

5) 院内研修年2回実施

4月：チーム医療における医療対話推進のスキル（eラーニング）

3月：移動介護について

6) インシデント・ヒヤリハットの状況（別表参照）

総評：報告に挙げた65件中、「療養上の世話」が25件を占めている。内容は様々であるがレベル1（間違いはあったが利用者に影響がなかった事例）が多くあった。状況に気づき対応できるように、インシデント報告し、共有する。そして、それ以上のリスクを生み出さないようにするという認識を大切にして、今後もスタッフへの指導・育成を継続していきたい。

インシデント・ヒヤリハットの状況

2024 年度		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医 局	記録記載間違い													0
	用法・用量の間違い													0
	スタッフへの指示ミス													0
	その他													0
歯科														0
薬 局	調剤ミス(計数)													0
	調剤ミス(誤薬)												1	1
	破損 その他							1						1
栄 養 科	異物混入													0
	配膳(忘・遅れ・誤認・調理)		1	1	1									3
	その他													0
心理科/リハビリテーション科														0
検査科/放射線科														0
MSW														0
事務課														0
小計		0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	5
看 護 部	転倒転落			1		1		3						5
	検査			1		3								4
	機器取扱い													0
	薬剤	1	1	1	1	1		1	1					7
	療養上の世話(療育)	7	2	1	2	3	1	1	1	1	4	1	1	25
	治療処置(ケア)													0
	管理・報連相・連携・苦情	1	1		1		2	2	1		1	1		10
	破損		1				1			1	1	1		5
	誤認(氏名・物)													0
	チューブ管理	1									1			2
	栄養(注入取扱含)				2									2
	その他													0
小計		10	5	4	6	8	4	7	3	2	7	3	1	60
全 体	ヒヤリハット	2				3								5
	level 0	2	3	3	2		3	4	2		1	1		21
	level 1	5	3	1	5	4	1	3	1	2	6	1	2	34
	level 2	1		1				1				1		4
	level 3					1								1
	level 4/5													0
2024 年度 合計		10	6	5	7	8	4	8	3	2	7	3	2	65
2023 年度 合計		8	6	7	11	7	1	4	5	2	5	5	3	64

5 権利擁護・虐待防止委員会

生活支援課 和田 欣久

1) 目的

利用者の権利擁護及び職員の倫理向上に努め、虐待防止を図る。
また、身体拘束の適正化を検討する。

2) 構成員

施設長（委員長）・看護部長・事務課長・生活支援課長・看護師・臨床心理士
生活支援主任・生活支援員

3) 開催期日 （偶数月の第4火曜日 10時）

4/23、6/25、8/27、10/22、12/24、2/25

4) 活動内容

(1) 人権／職場環境目安箱の活用による利用者支援や職場環境に関する問題点の抽出及び検討を実施。

・委員会開催前に目安箱の投書有無を確認し、投書があれば対応を検討する。
今年度の投書は無かった。

(2) 緊急時やむを得ない身体拘束が必要な利用者の再検討を実施。

・毎月のカンファレンスにて多職種による評価と検討を行っており、委員会内においても利用者毎に身体拘束の必要性有無について再検討を行う。
・委員会で管理している「拘束同意一覧」と家族に同意を得ている「拘束同意書」に相違がない事の確認を適宜行っている。

(3) 教育研修等

4月～3月 呼称(利用者及び職員への「さん」付け)の徹底

委員会年間目標として掲げ、施設内にポスターを掲示し周知を図った

4月 重心協主催による意思決定支援に関する研修（リモート）

7月 障害者虐待防止研修（法定研修）：7/24 11:15～11:40 生活支援員担当

9月 意思決定支援研修：9/27 11:15～11:40 生活支援員担当

12月 短期利用者の利用期間中の外傷対策について検討

1月 虐待防止セルフチェックシートを実施（全職種対象に無記名で実施）

2月 児童虐待防止法研修：2/25 11:15～11:40 生活支援員担当

院内マニュアルの確認

緊急時やむを得ない拘束同意を頂いている利用者の評価

5) 課題

呼称の強化期間を通年にしていく事で職員間での徹底がなされている。次年度も継続していく方針である。今年度も研修の中でグループワークを取り入れてきており、他職種同士が意見を交える事で虐待防止や身体拘束に対する取り組みの意識向上に繋げる事ができた。虐待防止セルフチェックシートを通じて職員同士や上司との関係、利用者の支援に対する悩みが抽出された。次年度もグループワーク等、参加者が主体となる研修を取り入れ、正しい知識や技術を身に付け、現場での実践に繋げていく。

6 衛生委員会

衛生管理者兼副委員長 宮地 正和

1) 目的

労働安全衛生法の規定に基づき設置し、労働者の健康障害、労働災害を防止するための基本となる対策などの重要事項について調査審議を行うこと

2) 構成員

統括管理者・委員長：施設長

管理職：産業医、薬剤科長（副委員長）

非管理職：看護師、支援員、事務員（労働者代表）

3) 開催日

原則、毎月第2木曜日に開催し、本年度は、4/11、5/9、6/13、7/11、8/9、9/13、10/11、11/8、12/13、1/10、2/14、3/14の計12回開催

4) 活動内容

(1) 衛生巡視

週1回各部署を巡視した

就業前の腰痛体操が未実施との回答が2回続いたので、該当者の部門長に報告

(2) 産業医巡視

月1回各部署を巡視

病棟1階、開床に伴い病室に温湿度計設置

病棟2階、モニターの転落防止のため土台をプラ製から木製に変更

(3) 健康診断

年2回実施

(4) 教育研修

4/26実施。学研のメンタルヘルス対策の動画を座学で研修

(5) ハラスメント対策

法人ハラスメント窓口と運用を変更

(6) ストレスチェック

オンライン上で年1回実施

(7) 職場環境改善

産業医巡視の指摘による改善以外はなし

(8) 入職者オリエンテーション資料

法人ハラスメント窓口を訂正

5) 今後の課題

産業医の面接指導について、職員がより利用しやすい体制を構築する

7 薬事委員会

薬剤科長 宮地 正和

1) 目的

本委員会は、施設長の諮問機関であり、医薬品の有効性・安全性の確保ならびに円滑な管理を行うことを目的としている。

2) 構成員

委員長 : 施設長
副委員長 : 薬剤科長
委員 : 看護師長、事務員

3) 開催日時

原則、隔月（偶数月）の第1火曜日に開催し、
本年度は、4/2、6/4、8/7、10/1、12/3、2/4、の計6回開催した。

4) 活動内容

（1）採用および削除品目数

原則どおりほぼ1増1減であった。

		新規採用品目数	採用削除品目数
院内限定	内服	10	10
	外用	1	1
	注射	0	1

（2）年度末時点の採用品目数

		採用品目数
院内限定	内服	87
	外用	42
	注射	34
	計	163

5) 今後の課題

前年度に続き供給が不安定な医薬品が続出しており、解消の見込みが立たない。
情報収集により医薬品の確保を第一としつつ必要に応じてメーカーの変更も検討する。

8 栄養委員会

管理栄養士 牧 由香
(副委員長)

1) 目的

栄養及び給食業務を適正に実施し、入所中の食事療養を実施する病院としてその趣旨の徹底を図り、より良いサービスを提供する。

2) 構成員

施設長（委員長）生活支援課課長、生活支援課支援員、看護師 1 名、事務長、栄養科主任（副委員長）、安田物産

3) 開催期日 4/16 9/17 2/25

4) 活動内容

(1) 栄養・給食に関する課題検討

- ・おせち料理や行事食の提供方法等の検討
- ・2024 年度報酬改定関連（栄養評価の仕方・書類の変更）
- ・1 階の開設に伴うミールラウンドのグループ分けの検討
- ・朝食の既製品ソフト食「クック・デリ」を導入検討・開始
- ・嗜好調査

(2) 施設内教育研修の実施

2024 年 5 月 29 日「土砂災害対策研修」にて非常食の設置場所・調理方法担当

(3) 嗜好調査

経口摂取されている入所者 29 名対象に 2025 年 3 月末実施。

① 調査の内容・方法

「好きな食べ物」「嫌いな食べ物」について生活支援員が直接聞き取り又は普段の様子から生活支援員が判断・家族の意見等を記述式・複数回答可とし、まとめた。

② 調査結果

好きな食べ物	濃い味	肉類	嗜好品	デザート	カレー	その他
	26%	20%	20%	11%	5%	18%

嫌いな食べ物	汁物	酸味	野菜	熱い物	芋	特になし
	37%	20%	16%	16%	4%	7%

③ まとめ

嗜好調査結果をもとに、嫌いな味付けを避けつつ、野菜を美味しく召し上げられる工夫や、好きなお肉を活かしたメニュー作りをさらに進めていく。また、利用者の声を丁寧に伺い、安全で満足度の高い食事の提供に向けて、改善と工夫を続けていく方針である。

9 NST・褥瘡対策委員会

看護師 奥野 智美
(副委員長)

- 1) 目的
 - ・院内褥瘡発生予防と早期治療に向けた対策の討議・検討
 - ・適切な栄養管理を行い、全身状態の改善、合併症を目指す
 - ＊2024年4月に、褥瘡対策委員会内にNST（栄養サポートチーム）を新たに設置した。
- 2) 構成員 施設長（委員長）、看護部長、看護師長、
看護師（副委員長）、事務主任、薬剤科長、栄養科主任、
リハビリテーション科長、生活支援課長、生活支援員
- 3) 開催日 2024年4/26 5/21 6/18 7/16 8/20 9/17 10/15 11/18 12/17
2025年1/21 2/25 3/18
- 4) 活動内容
 - (1) 全利用者に体圧分散マットを使用、マットレスの検討
 - (2) 排泄や入浴、更衣などケア時の皮膚観察と、褥瘡発見時の委員への報告
 - (3) 褥瘡対策の検討と各階スタッフによる継続した対策の実施
 - (4) 褥瘡保有者の褥瘡評価（毎週月曜日の写真撮影）
 - (5) 褥瘡治癒による評価終了の決定
 - (6) 褥瘡保有者とハイリスク者のラウンド
 - (7) 褥瘡保有者のラウンド前ミーティング
 - (8) 対象者の経口摂取量、嚥下状態、身体測定値、血液データから栄養状態の評価
 - (9) 利用者の栄養補給方法の提案、栄養摂取状況、全身状態の検討
 - (10) ミールラウンドへの参加。利用者の状況確認を行い委員会に反映した
- 5) 褥瘡保有と発生状況

(1) 褥瘡保有状況

	2024 年度	2023 年度
褥瘡保有人数	1 人	3 人
褥瘡件数(延べ)	3 件	7 件
短期入所の褥瘡悪化件数	0 件	0 件
入所時すでに褥瘡がある人数と件数	0 人 0 件	0 人 0 件
褥瘡再発件数	1 件	2 件
持ち込み褥瘡の治癒	0 人	0 人

(2) 褥瘡発生部位 (件)

発生部位 / 年度	2024	2023
仙骨部・坐骨部・腸骨部	2	4
足趾・内外踝・踵	2	3
腰背部・肩	0	0
耳	0	0
手指・指間・手	0	0
その他	0	0
計	4	7

6) NST 活動実績

- (1) 介入件数 15 件（長期入所者のみ）
- (2) ミールラウンド 12 回/年 参加

7) 課題

- (1) 褥瘡発生因子除去に対する意識の向上
- (2) 愛護的ケアと対策の継続実施
- (3) 経管栄養注入剤の検討、食事注入開始のための働きかけ

10 初回支援計画策定会議・モニタリング会議・サービス担当者会議・ 支援計画原案作成・支援計画作成

サービス管理責任者：山下 貴浩

1) 目的

利用者及びその家族からの生活に対する意向を踏まえ、生活全般の質を向上させ、安心・安全な療育環境を提供できるように支援計画を立案する。総合的な支援の方針及び具体的な支援内容を検討・決定する。

2) 構成員

生活支援課長・生活支援係長・生活支援主任・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者・担当生活支援員

3) 開催期日

初回支援計画策定会議は長期入所日までに実施している。

モニタリング会議及びサービス担当者会議は半年毎にスケジュールを立て期日までに適宜実施している。

4) 活動内容

(1) 初回支援計画策定会議

3 名の新規長期入所者に対し、事前情報や短期入所時の情報からアセスメントを行い、支援計画を立案する為の策定会議を実施した。

(2) モニタリング会議

6 カ月毎にモニタリング（支援計画の評価及び見直し）会議を開催している。

長期入所者 41 名に対し、延べ 80 名に実施した。

支援計画に対する評価及び見直しの議論を行っている。

(3) 支援計画原案作成

モニタリング会議の結果から、支援計画の基となる原案を作成している。

同時にアセスメントの更新も実施している。

(4) サービス担当者会議

支援計画の原案から、支援内容の意図や情報共有を行い、実現可能かつ具体的な支援内容を検討・決定している。

(5) 支援計画の作成（更新）

サービス担当者会議の結果に基づき、利用者と家族の意向に沿った支援計画が作成できている。

意思決定支援に基づき、支援計画の説明の場においては、家族または成年後見人及び利用者にも同席をして頂く形をとり、支援計画の内容について了承を得ている。

(6) 会議議事録の作成と報告による支援方法の周知

各職員が閲覧できるように各会議議事録を作成し周知に務めた。更に毎月の病棟内カンファレンスで会議の決定事項を報告し支援方法の周知徹底に努め、専門職からも専門性を活かした助言を受けている。

5) 今後の課題について

報酬改定により、障害福祉分野での運営基準に意思決定支援が追加された為、全利用者に対し、意思決定支援の支援内容を含めた支援計画書を作成している。

今後も利用者や家族の意向がしっかり反映されている意思決定支援を意識した初回支援計画策定会議・モニタリング会議・サービス担当者会議を開催し、支援計画を作成していく。

11 医療ガス安全管理委員会

事務部副主任 八木 佳彦

1) 委員会の目的

医療ガス設備の安全管理を図り、利用者の安全を確保すること

2) 構成員 事務課長（委員長）、看護師長（副委員長）、施設長（監督責任者） 薬剤科科長、看護主任（実施責任者）、事務員（実施責任者）

3) 開催日 5/7、11/5

4) 活動

(1)勉強会実施

日 時 6月27日

テーマ 「医療ガスの取り扱いについて」

講 師 (株)商起産業 石渡 孝司 氏

内 容 器具接続、脱着時の注意点、インシデント事例、事故例の確認

(2)点検

使用前 アウトレット

毎日 供給設備

保守点検（年2回） (株)商起産業実施

(3)通報

スタッフステーションの医療ガス切り替え通報ブザーが鳴り次第、商起産業へ連絡（利用者の人数、状態にもよるが2週に1回程度）

12 施設行事・ボランティア実行委員会

生活支援課 吉田 誠
(副委員長)

1) 目的

施設行事が安全かつ適正に遂行出来るよう計画・準備・実施・評価をする。
また、活動ボランティアの受け入れ予定の連絡・実施後の報告をする。

2) 構成員

施設長・看護部長・生活支援課長（委員長）・看護師長・看護師
生活支援員 2 名（内 1 名副委員長）・理学療法士・事務員

3) 開催期日 （奇数月の第 4 火曜日）

4/23(臨時開催)、5/28、6/25(臨時開催)、7/23、8/27(臨時開催)、9/24、
11/26、1/28、3/29

※臨時開催は納涼祭計画での検討事項が多い為開催となる。

4) 活動内容

(1) 年間行事計画策定

- ・ 4 月：利用者に関連したクイズ大会（4/21）
- ・ 5 月：兜を仮装し写真撮影（5/5）
ボランティアによる津軽三味線と民謡（5/19）
- ・ 6 月：ボランティアによる津軽三味線と民謡（6/16）
- ・ 7 月：水鉄砲で射的（7/21）
地域交流 お囃子（7/27）
- ・ 8 月：ボランティアによるクラリネットやコントラバスの演奏（8/18）
- ・ 9 月：納涼祭（9/29）
- ・ 10 月：カラオケ大会（10/20）
- ・ 11 月：カラオケ大会（11/16）
- ・ 12 月：クリスマス会（12/15）
- ・ 1 月：初詣（1/1 長竹神社）
書初め（1/2）
かるたとり大会（1/19）
- ・ 2 月：コロナ感染対策でお楽しみ会中止（2/16）
- ・ 3 月：バレンタインデー & ホワイトデー（3/16）

(2) 納涼祭：9/29 開催

- | | |
|----------------------------|----------------|
| ・ 午前中外部の方への開放、短期入所利用相談窓口設置 | |
| ・ 地元自治会への説明 | ・ 展示物の決定 |
| ・ 納涼祭ポスター作成 | ・ 病棟レイアウト作成 |
| ・ 納涼祭プログラム作成 | ・ 役割分担表作成 |
| ・ 職員タイムテーブルと職員配置表作成 | ・ 各会場の準備及び飾り付け |
| ・ 当日配布用冊子作成 | ・ 納涼祭収支報告 |
| ・ 外部事業所等へのポスター配布 | ・ ボランティアへ参加依頼 |

(3) 春・秋のバス遠足

- ・新型コロナウイルス感染症対策の為、計画・実施せず。

(4) ボランティア

- ・青森南部会さん（三味線・民謡）5/19・6/16
- ・はなぐるまさん（クラリネットやコントラバスの演奏）8/18

5) 今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症禍でも利用者が楽しめる施設行事及び季節行事を提供していく。
- ・9月より1階開床に伴い、お楽しみ会実施が1階及び2階と3階と隔週開催となった。同じ内容での開催が難しくなったため、内容の精査が必要となった。

13 防災対策委員会

事務部副主任 八木 佳彦

1) 活動目的

火災・災害時に入所者の安全を念頭においた初期対応・避難誘導が実施できるよう訓練を企画する。

2) 構成員

施設長、看護師長、看護主任、生活支援課長、栄養科主任 看護職員、生活支援員、事務課長（委員長）、事務員

3) 開催日 4/2、9/3、2/4

4) 活動内容

- (1) 防災計画、防災対策マニュアルの策定と職員への周知
- (2) 入所者の避難誘導訓練計画策定（月 1 回訓練実施）、シナリオ、役割分担等作成
- (3) 想定（平日、夜間、休日）別防災訓練の企画・実施
- (4) 災害（人災・天災）時対応並びに予防対策と訓練（情報伝達訓練メール）
- (5) 避難通路の確保（段差対策・物品）
- (6) 月例の防災・避難誘導は全職員参加と観察者立ち合いによる評価
- (7) 避難確保計画（土砂災害）の作成・更新・周知
- (8) 事業継続計画（BCP）の作成・更新・周知
- (9) 非常食マニュアルの策定

14 情報管理・広報委員会

リハビリテーション科 加藤 友三郎
(理学療法士 副委員長)

1) 目的

診療記録等の診療情報資料（カルテ・各種帳票類の書式）の記載方法、運用方法などに関して適正かつ効率的に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図る。また、紙媒体に限らず映像や電子データも含めた情報の管理も行う。
施設の運営状況や利用者支援活動を家族、関係者、地域住民に対して広報活動することで、理解を深め、協力していただける関係づくりを積極的に行う。

2) 構成員

施設長・支援課長（委員長）・看護部長・看護主任・看護師・支援主任・理学療法士（副委員長）・事務員

3) 開催期日 隔月 1 回（第 2 火曜日）

4) 活動内容

（1）ホームページ更新（以下 HP）

・病院概要も乗せるべきと判断して記載した 診療情報開示事項も修正

（2）広報誌

・月 1 回発行し、家族に郵送した

（3）情報管理

・院内マニュアルの更新を行った
年 1 回で確認することとなっている
・「施設障害福祉サービス計画書原案」を新規作成した

5) 今後の課題

（1）外泊外出用紙電子化等を検討

（2）カルテ内の急変時の同意書の更新

15 診療録管理委員会

看護師長 本多 薫
(副委員長)

1) 活動目的

診療情報及び診療記録の業務を適正かつ円滑に運営する。
標準的な診断および治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う。

2) 構成員

施設長（委員長） 参与 事務主任 薬剤科長 生活支援課長
看護師長（副委員長） 看護主任

3) 開催期日

4/9 6/18 9/10 12/10 3/11

※ 8月12月はICD 疾病分類のコーディング会議実施

4) 活動内容

- (1) コーディング会議準備・開催
- (2) 入退所に伴う様式1作成・検討
- (3) カルテ綴り方マニュアル改定
- (4) カルテ保管庫管理
- (5) カルテ整理
- (6) 廃棄書類の選定・処理

5) 総括と今後の課題

当施設も開所10年を過ぎ、カルテ内文書数も増えている。一人一人の容量も増えていく中で、必要な情報を引き出すことができるように医師指示類と看護書類を仕分けし保管することとした。

また、コーディング会議で再入所した利用者の情報交換や共有を実施。今後も診療録管理が滞りなく行えるように継続していく。

Ⅲ 所属団体・学会、研究業績等

1 所属団体

団体 \ 職種	医師	薬剤師	看護職員	生活支援員	臨床心理士	管理栄養士	作業療法士	理学療法士
神奈川県重症心身障害児者協議会 *	○		○	○		○		○
日本重症心身障害福祉協会 *	○		○	○				
日本医師会	○							
神奈川県医師会	○							
相模原市医師会 *	○							
相模原市病院協会 *	○		○					
相模原病院協会看護部長会 *			○					
相模原市福祉事業所協会 *			○	○				
日本病院薬剤師会		○						
神奈川県病院薬剤師会		○						
日本看護協会			○					
神奈川県看護協会			○					
神奈川県看護部長会			○					
日本臨床心理士会					○			
日本栄養士会						○		
神奈川県栄養士会						○		
日本作業療法士協会							○	
日本理学療法士協会								○
相模原市重心ネットワーク *				○				

* 施設として入会

2 所属学会

団体 \ 職種	医師	薬剤師	看護職員	生活支援員	臨床心理士	管理栄養士	作業療法士	理学療法士
日本外科学会	○							
日本小児外科学会	○							
日本重症心身障害療育学会						○		
日本医療薬学会		○						
日本摂食嚥下リハビリテーション学会							○	
日本心理臨床学会					○			
日本臨床動作学会					○			
日本看護学会			○					

IV 特別支援学校

1 津久井支援学校の児童・生徒数

令和6年5月1日現在

区分	知的障害教育	肢体不自由教育	訪問教育	合計
小学部	3	2	0	5
中学部	5	2	0	7
高等部	33	1	1	35
合計	41	5	1	47

2 ワゲン療育病院長竹に入所している生徒

令和6年度は、本校教員が施設を訪問して授業を行う訪問教育対象の生徒1名（高等部2年）が在籍している。

3 令和6年度の教育活動

1) 訪問教育の授業

家族室で、週3回（月・水・金）、各1時間（午後1時半～2時半）の授業を行った。自立活動を主とした教科等を合わせた指導を行い、日課は、はじめの会、生活、からだづくり、終わりの会で構成した。

生活の「音楽」では、キーボードを使い、音やリズムを楽しみながら身体を動かしたり楽器を鳴らしたりできた。また、本校の太鼓の授業にリモートで参加し、他の生徒と一緒に締太鼓の演奏をすることができた。「美術」では、粘土や段ボール等の様々な素材に触れ、感触を味わいながら制作に取り組むことができた。他にも、感覚刺激を取り入れた学習を行い、目や口元の動きで香りや温冷等への気付きを表現できる場面が増えてきた。

からだづくりでは、背中や肩甲骨周辺のマッサージをしたり、腰掛け座位をとって身体を左右に捻るストレッチを行ったりした。月に1～2回、スヌーズレンルームで活動を行うと、光や揺れの刺激を受けて筋緊張が緩み、息を吐いてリラックスすることができた。

2) スクーリング

施設看護師の同行のもと、計6回スクーリングを実施することができた（6月：ポニー体験、7月：同級生とのレクリエーション交流、9月：肢体不自由教育部門の児童・生徒との学習、10月：ポッチャ体験、11月：学習発表会、3月：学校での昼食、修了式）。

児童・生徒や他の教員の呼びかけに、目を見開いたり腕をゆっくりと動かしたりして応える場面があり、学校の雰囲気を感じ取っている様子だった。

学習発表会では、太鼓コースの生徒と舞台上で一緒に演奏することができ、リモート学習の成果を披露できた。さらに、同級生と一緒にステージ発表を行い、発表後はみんなでハイタッチをしてやり取りを楽しむことができた。

V 神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会の活動

幹事 高橋 博行
(生活支援課課長)

1) 活動目的

神奈川県内の重症心身障害児者に関わる諸施設が、サービス向上や社会的啓発を目指すための協議会である。病院・社会福祉法人が運営する療養介護事業所・医療型障害児入所施設や生活介護事業所が学びあい連携し、県内重心福祉の充実を図っている。

各部会がテーマ別に1年を通して会合を開き、情報・意見交換を行い職員の資質の向上及びサービスの質の向上に役立てる。

2) 活動内容

- (1) 機関紙「神奈川の RYOUIKU」の発行(年1回)
- (2) 行政や各関係機関との連絡会議の開催(年1回)
- (3) ニーズ調査・実態調査・研究事業(適宜)
- (4) 重症心身障害看護師認定制度の推進

3) 活動実績

(1) 総会 2024年 4月19日(金)

横浜医療福祉センター港南、webのハイブリット開催

内容：①2023年度事業報告

②2023年度 会計報告及び監査結果報告

③会長改選

④2024年度 事業計画案

⑤2024年度 予算計画案

⑥その他検討・確認事項

(2) 施設連絡会 第1回 2024年 9月13日(金)

横浜医療福祉センター港南、webのハイブリット開催

内容：①行政説明(令和6年度報酬改定について)

②2024年度関係機関との連絡会について

③2024年度研修について

④その他検討・報告事項

施設連絡会 第2回 2025年 2月

書面開催

内容：①2024年度会計中間報告

②施設分担金の減額について

③2025年度事業計画・予定について

④2025年度部会運営について

⑤重心協ホームページ改定について

⑥神奈川の RYOUIKU48号について

⑦その他検討事項・確認事項

- (3) 幹事会
内容 協議会運営（各分会、研修など）関係機関との連絡会アンケート実施、
神奈川の RYOUIKU48 号編集等
・ 2024 年度年間 12 回開催（現地集合・web 会議・ハイブリット開催）
- (4) 事務長会
内容 施設経営、運営等についての情報交換・意見交換
・ 2024 年度年間 2 回開催（web 会議）
- (5) 看護師長会
内容 重症心身障害認定看護師研修運営、看護管理情報交換等
・ 2024 年度年間 6 回開催（現地集合）
- (6) 入所施設分会
内容 より良い支援のために、各施設の課題についての情報交換・意見交換
・ 2024 年度年間 6 回開催（現地集合）
- (7) 通所分会
内容 より良い支援を行うために情報交換・意見交換
・ 2024 年度年間 5 回開催（web 会議）
- (8) 看護分会
内容 重心施設での看護実践の現状を踏まえ情報交換をおこない、
看護の質の向上に向けた取り組みができる。
・ 2024 年度年間 4 回開催（web 会議）
- (9) 栄養士分会
内容 食事形態と行事食の取り組みについて、
栄養価向上のための各施設の取り組みについて情報交換・意見交換
・ 2024 年度年間 3 回開催（web 会議）
- (10) リハビリテーション分会
内容 各施設の情報交換・意見交換（移乗・腰痛予防の研修資料・動画を作ろう）
・ 2024 年度年間 2 回開催（web 会議）
- (11) 薬剤師分会
内容 各施設の情報交換・意見交換
・ 2024 年度年間 2 回開催（web 会議・現地集合）

(12) 関係機関との連絡会

日時 2024 年 11 月 22 日 (金)

開催方法 神奈川公会堂・web のハイブリット開催

出席：神奈川県福祉こどもみらい局障害サービス課福祉施設グループ

神奈川県福祉こどもみらい局障害サービス課運営指導グループ

神奈川県障害福祉課地域生活支援グループ

横浜市こども青少年局こども福祉保健部障害児福祉保健課

横須賀市障害福祉課計画係

横須賀市児童相談所相談係

神奈川県重症心身障害児（者）を守る会

重心協加盟施設 22 施設

関係機関 11 名 当協議会 56 名 計 67 名

内容 ① 県による昨年度から現在までの施策に対する進捗状況等の説明

② 重心協から現状報告（重症心身障害児者を取り巻く現状と課題/実践報告）

③ 重心協からの質問事項について関係機関からの説明・質疑応答

(13) 医師連絡会

今年度の開催はなし

(14) 職員交流研修会

交流研修会①（入所）

日時 2024 年 11 月 6 日 (木)

開催 ワゲン療育病院長竹

内容 入所施設利用者の日常生活の見学・支援、意見交換

職員交流研修②（通所）

日時 2025 年 1 月 14 日 (水) 16 日 (木) 27 日 (月) 29 日 (水)

開催 みどりの家

内容 通所施設利用者の日常生活の見学・支援、意見交換

職員研修会

日時 2025 年 1 月 22 日 (月)

開催方法 横浜医療福祉センター港南

内容 意思決定支援について

・各施設での取り組みの共有

・グループワーク

講師 社会福祉法人みなと舎

理事長 森下 浩明氏

(15) 神奈川の RYOUIKU 第 48 号 2025 年 4 月発行

2024 年度（第 11 号） 年報

発行年月 : 2025 年 6 月

発行者 : 社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹 施設長 村上 研一
〒252-0154 神奈川県相模原市緑区長竹 4 9 4 - 1

電話 0 4 2 - 7 8 4 - 7 2 2 7

FAX 0 4 2 - 7 8 4 - 3 8 0 0

ホームページ

<http://www.wagen.or.jp/nagatake>

編集委員	責任者	村上 研一	施設長
	委員長	真田 哲也	事務長
	副委員長	平川 千鶴子	看護部長
	委員	石山 美代子	参与
		本多 薫	看護師長
		高橋 博行	生活支援課長
		加藤 友三郎	理学療法士
		馬上 歩	事務課主任

編集委員会 第 1 回 2025 年 2 月 4 日
第 2 回 2025 年 5 月 20 日
第 3 回 2025 年 6 月 3 日
第 4 回 2025 年 6 月 24 日

〈編集後記〉

開設から 10 年という節目を過ぎて、新たな 10 年間の歩みを始めた当施設ですが、年報も新たな改革を迫られる時期となりました。

昨今の物価上昇等の社会情勢により、紙媒体での印刷物を刊行することは年々厳しい状況となっています。また、電子カルテを始めとしたペーパーレス化の時代の流れも鑑み、今年からは希望される方だけに紙媒体での年報をお配りし、それ以外の方々には PDF 化した年報を電子媒体で配布することと致しました。

こうした年報の編集作業の効率化と省資源化の動きは、当施設に限らず全国の医療福祉機関の定期刊行物にも見られるもので、これも時代の流れかと考えます。

ただ個人的には、同じ文章を手でめぐりながら読むことの方が伝わることも多いと思うのも事実で、こうした感性を医療や福祉の世界では大切にしていきたいことも重要と考えます。

時代の流れで IT 化が進んでも、アナログ的な考え方や人間の手の温もりを大切にしながら日々の業務に励むことを忘れないようにしたいと思います。

また末筆ながら、2025 年 4 月より事務課長の真田が事務長となり、これまで以上に精力的に年報の編集作業に携わってくれたことで長竹の年報編集委員会もより強固な体制を整えることができました。これも 10 年の当施設の歴史の中で画期的な飛躍と思います。

今後ともよろしくお願い致します。(村上)